

# 第1章



## 就学前児童・家庭の アンケート調査結果



# 1. 回答者のプロフィール

## まとめ

回答者のほとんどは、母親・30歳代。わずかだが父親による回答も。各年齢層から回答を得た。各年齢層が、それぞれ1割強～2割弱を占めている。

1歳以下の5割前後は兄弟姉妹がいる。2歳以上の各年齢層の1～2割は兄弟姉妹がいない。

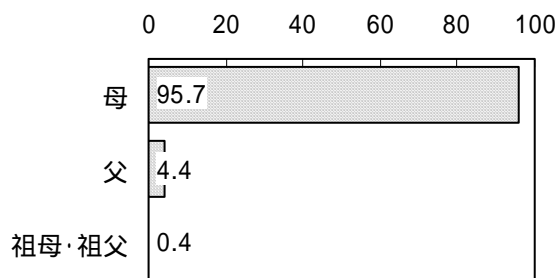
就学前児童の約7割は核家族で暮らす。ひとり親家族は1割未満。

保育園・幼稚園等を利用しているのは、1～2歳児の2割、4～5歳児の9割以上。

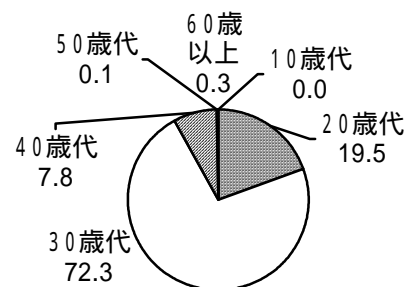
## 回答者の続柄と年齢

問1 回答していただく方の、お子さんとの続柄は何ですか？

問2 回答していただく方の年齢は、おいくつですか？



(問1 = 回答者数 982人)



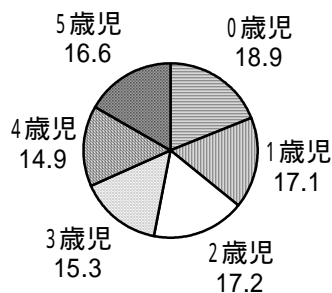
(問2 = 回答者数 980人)

回答者のほとんどは、母親・30歳代。わずかだが父親による回答も。

回答者を子どもとの続柄で見ると、9割以上が母親であり、父親が回答したのは1割未満である。ごく少数事例であるが、祖母・祖父による回答もみられる。また、回答者を年齢別にみると、約7割が30歳代であり、20歳代が約2割である。少数事例であるが、40歳代以上による回答もみられる。

## 子どもの年齢

問3 あて名のお子さんのお誕生日はいつですか？



(回答者数 973 人)

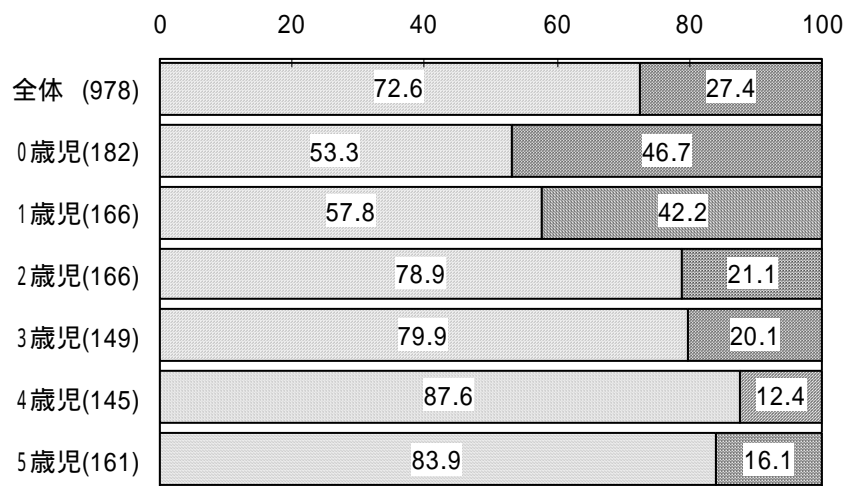
各年齢層から回答を得た。各年齢層が、それぞれ1割強～2割弱を占めている。

児童の年齢層別にみると、0歳児(平成14年4月～平成16年1月生まれ)をはじめ、他の年齢層についても、それぞれ1割強から2割弱を占めている。

## 子どものきょうだい

〔年齢別〕

問4 あて名のおさんは、何人きょうだいですか？



□きょうだい有り

■きょうだいはいない

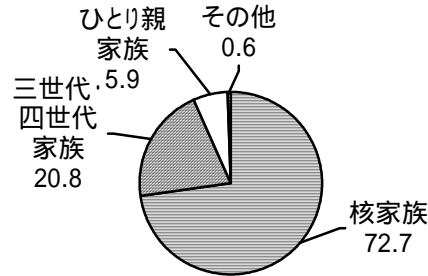
(かっこ内は回答者数)

1歳以下の5割前後は兄弟姉妹がいる。  
2歳以上の各年齢層の1～2割は兄弟姉妹がいない。

就学前児童の約7割には、きょうだい(兄弟姉妹)がいる。0～1歳児の5割強～6割弱には、きょうだいがいる。また、2歳児以上では8割前後にきょうだいがいる。

## 家族構成

問5 ご家族は、次のどれに当たりますか？



(回答者数 978 人)

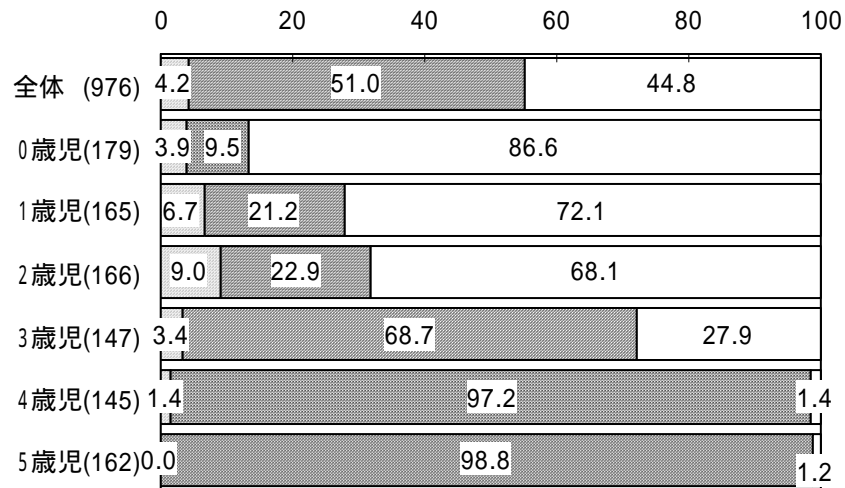
就学前児童の約 7 割は核家族で暮らす。ひとり親家族は 1 割未満。

就学前児童の約 7 割は、核家族で暮らしている。また、三世代・四世代家族で暮らすのは、約 2 割である。少数事例ではあるが、ひとり親家族は 1 割未満である。

## 園などへ預けているか

〔年齢別〕

問9 現在、あて名のお子さんを、保育園や幼稚園や託児所、または親族などに預けていますか？



□ 親族や友人 ■ 保育園や幼稚園、託児所など □ 預けていない  
(かっこ内は回答者数)

-----  
保育園・幼稚園等を利用しているのは、  
1～2歳児の2割、4～5歳児の9割以上。  
-----

就学前児童の約5割は、「保育園や幼稚園、託児所など」に預けられており、1割未満は「親族や友人」に預けられている。

児童の年齢層別に「保育園や幼稚園、託児所など」に預けている人をみると、0歳児で約1割だが、1～2歳児では約2割に達する。また、3歳児では約7割に及び、4～5歳児では9割以上を占める。「親族や友人」に預けているのは、わずかではあるが、児童の年齢層にかかわらず存在する。

「預けていない」家庭についてみると、0～2歳児では過半数を占めているが、3歳児では約3割となり、4～5歳児では、ごく少数である。

## 2. 親族関係のなかでの子育て

### まとめ

父方の祖父母の約5割、母方の祖父母の約4割は市内にいるが、祖父母が県外という家庭も約2割。

祖父母に預かってもらうのは7割。手助けが特にない人が約1割。

親族・知人等に預ける場合、ほとんどが祖母に預けている。

親族・知人等に預ける時間帯のピークは、11～15時頃。

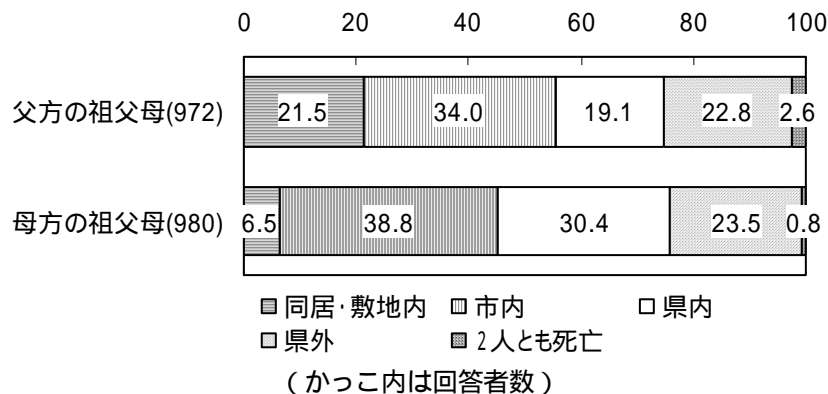
子どもの面倒をみられないことがあった保護者は5割弱。

「保護者」の代わりに面倒をみたのは、父親4割強、祖父母8割。

### 父方・母方の祖父母

問6 お子さんの、父方のおじいさん・おばあさんは、どちらにお住まいですか？

問7 お子さんの、母方のおじいさん・おばあさんは、どちらにお住まいですか？

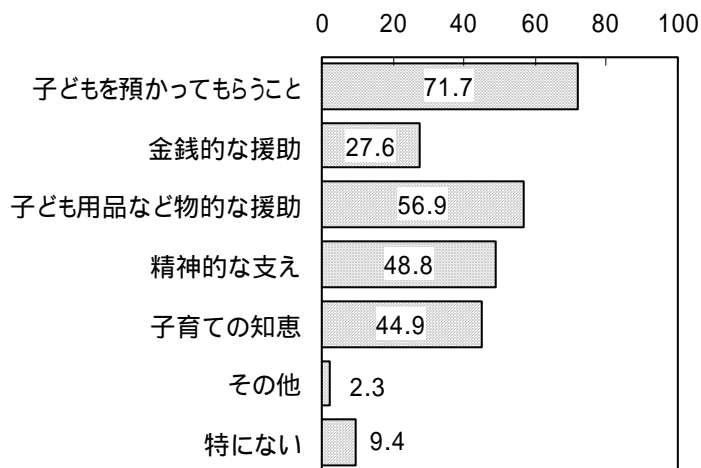


父方の祖父母の約5割、母方の祖父母の約4割は市内にいるが、祖父母が県外という家庭も約2割。

就学前児童からみて、父方の祖父母が「同居・敷地内」で一緒に暮らしているのは約2割であり、「市内」は約3割である。同様に母方の祖父母は、「同居・敷地内」が1割未満であり、「市内」は約4割である。その一方で「県外」に祖父母がいるという家庭に着目してみると、父方・母方ともに約2割が「県外」で暮らしている。

## 祖父母からの手助け

問8 子育てで、お子さんのおじいさん・おばあさんの手助けはありますか？



(回答者数 980 人、複数回答)

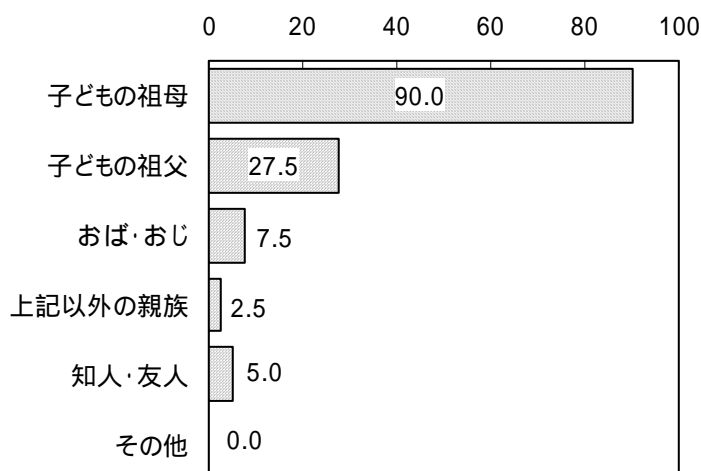
祖父母に預かってもらうのは7割。手助けが特にない人が約1割。

就学前児童のいる家庭・保護者で、祖父母に「子どもを預かってもらうこと」があるのは、約7割である。次いで、金品による援助を得ているのは、「金銭的な援助」の場合は約3割、「子ども用品など物的な援助」は約6割である。さらに、「精神的な支え」を得ているのは約5割である。

一方、祖父母による手助けが「特にない」という事例もあり、約1割である。

## 預けることのある親族・知人

問10 預けている人はどなたですか？



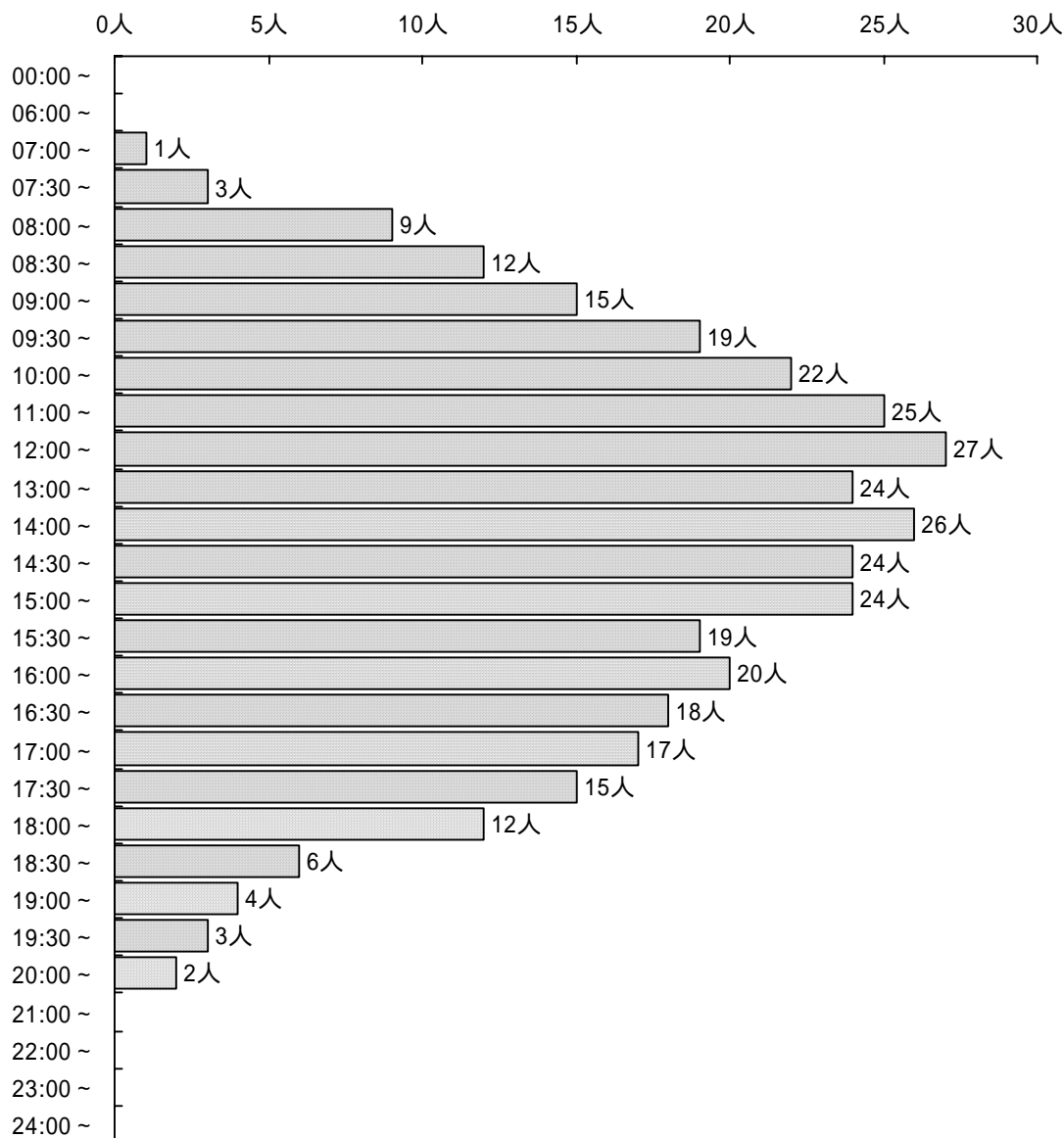
(回答者数 40 人、複数回答、親族等に預けている人)

親族・知人等に預ける場合、ほとんどが祖母に預けている。

問9で「親族や友人に預けている」とした家庭の預け先は、約9割が「子どもの祖母」である。それ以外の親族関係にある人々に預けている例はわずかである。また、「知人・友人」に預ける例も、1割未満である。

## 親族・知人に預けるときの実態

問11 預けている日数と時間はどのくらいですか？



(回答者数 34 人、親族等に預けている人)

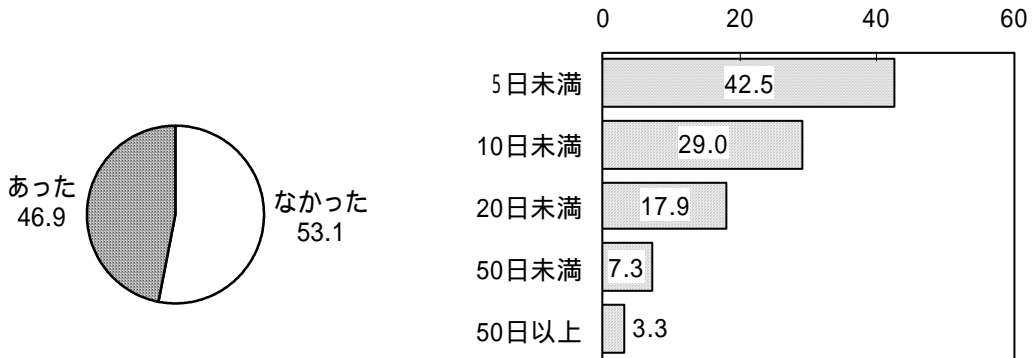
親族・知人等に預ける時間帯のピークは、11～15 時頃。

問9で「親族などに預けている」とした家庭(児童)34人に限って、預けている実態を時間帯ごとに整理したものが上図である。親族等に預けている時間帯は、7 時台から 20 時台までに及ぶ。預けている人数のピークは、11～15 時頃にある。



## 保護者が面倒をみることができない日数

問 21 この1年間に、緊急の用事や保護者の病気や出産で、あて名のお子さんの面倒をみられないことがありましたか？



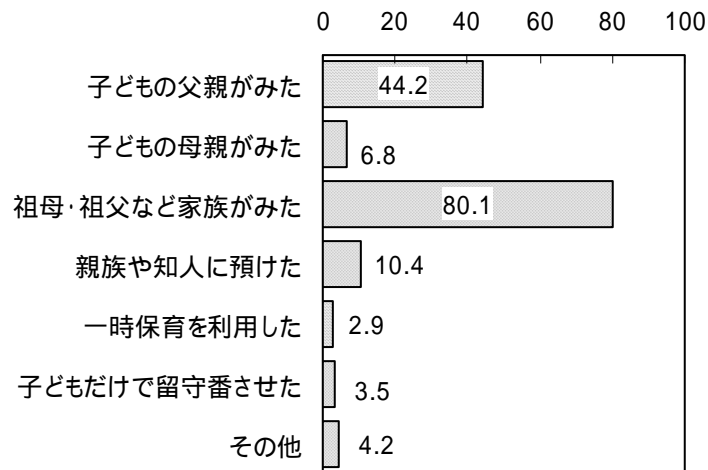
(回答者数 970 人、右図はみられないことのあった回答者 424 人の日数)

子どもの面倒をみられないことがあった保護者は 5 割弱。

「1年間に、緊急の用事や保護者の病気や出産で、...お子さんの面倒をみられないこと」があった家庭・保護者は、約 5 割である。そのうちの約半数は、みられなかった日数が年間 5 日未満である。一方、ごく少数事例ではあるが、年間 50 日以上「みられないこと」があった家庭・保護者も見受けられる。

## 保護者以外の誰が面倒をみるか

問 22 その時は、どなたがお子さんの面倒をみましたか？



(回答者数 453 人、複数回答、保護者が面倒をみることができなかったことのある人)

「保護者」の代わりに面倒をみたのは、父親 4 割強、祖父母 8 割。

「みられないこと」があった家庭・保護者が、その時に面倒をみてもらったのは、約 8 割が「祖母・祖父など家族」である。「子どもの父親」は約 4 割である。

一方、「子どもだけで留守番させた」「一時保育を利用した」とする例も少数ではあるが見受けられる。

## 3. 地域社会での子育て

### (1) 地域と子育て

#### まとめ

0歳児・1歳児の2～3割は賃貸住宅、4歳以上の7割台は持ち家一戸建てで、暮らす。

あいさつ程度の付き合いが5割弱。ほとんど付き合いなしは1割未満。

地区の民生・児童委員を知らない家庭が7割。よく相談するのは少数事例。

子育てしやすい地区であると感じる家庭は6割以上。

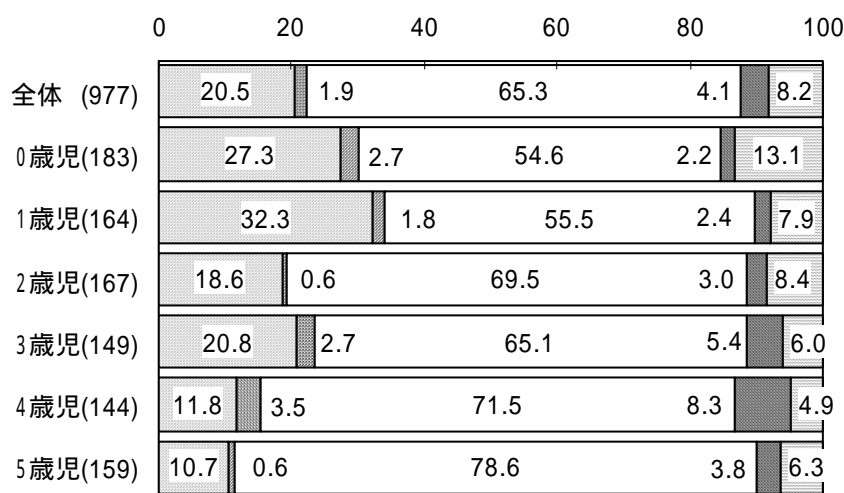
自然環境、公園・児童館など公共施設は、子育てしやすさ感を分ける指標のひとつ。

市内全域から回答を得た。おおよそ就学前児童の人口比どおりの分布。

#### 住まいの種類

〔年齢別〕

問25 お住まいは、次のどれに当たりますか？



□ 賃貸マンション・アパート   ■ 市営・県営・公団賃貸   □ 持ち家(一戸建)  
 ■ 持ち家(マンション)   □ その他・社宅など

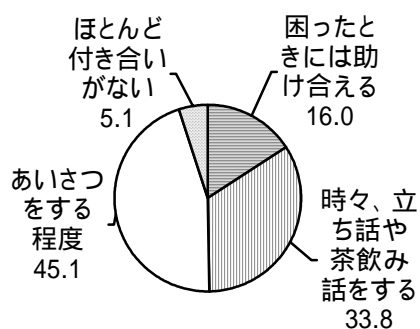
(かっこ内は回答者数)

0歳児・1歳児の2～3割は賃貸住宅、  
4歳以上の7割台は持ち家一戸建てで暮らす。

就学前児童の約7割は「持ち家(一戸建)」の住宅環境で暮らしている。児童の年齢層別にみると、0～1歳児では「賃貸マンション・アパート」が3割前後であるのに対し、4～5歳児では1割台である。また、「持ち家(一戸建)」は、0～1歳児では5割台であるが、4～5歳児では7割台に及ぶ。

## 近所づきあい

問 26 お宅では、普段近所とおつきあいをどの程度していますか？



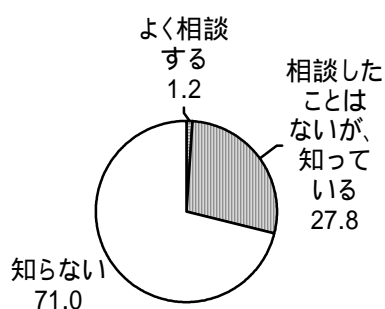
(回答者数 977 人)

あいさつ程度の付き合いが5割弱。ほとんど付き合いなしは1割未満。

就学前児童をもつ家庭・保護者の近所づきあいの程度は、「困ったときには助け合える」とするのは2割に満たない。「時々、立ち話や茶飲み話をする」のは約3割であり、「あいさつをする程度」は約5割である。ごく少数事例ではあるが「ほとんど付き合いがない」とする家庭・保護者も見受けられる。

## 民生・児童委員

問 27 お住まいの地区の民生・児童委員、主任児童委員をご存知ですか？



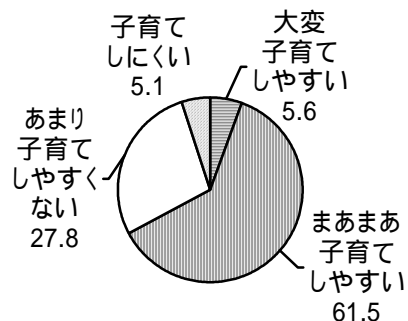
(回答者数 976 人)

地区の民生・児童委員を知らない家庭が7割。よく相談するのは少数事例。

地区の民生委員を「知らない」とする家庭・保護者は約7割である。「相談したことはないが、知っている」のは約3割であり、「よく相談する」のはごく少数事例である。

## 地区の子育てしやすさ

問 28 お住まいの地区は子育てしやすい地域ですか？



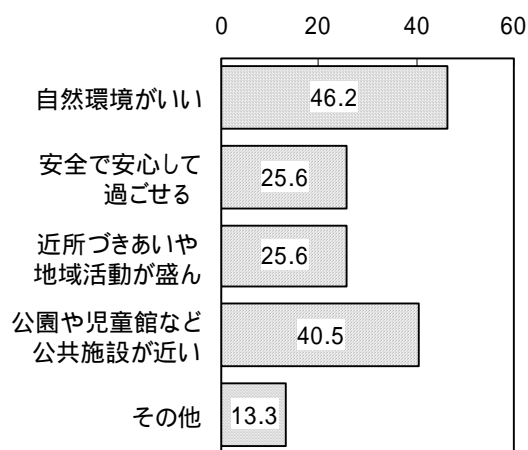
(回答者数 967 人)

子育てしやすい地区であると感じる家庭は6割以上。

住んでいる地区が「大変子育てしやすい」または「まあまあ子育てしやすい」と感じているのは、合わせて6割以上である。一方、「あまり子育てしやすい」と指摘するのは約3割であり、「子育てしにくい」とする家庭・保護者は1割未満である。

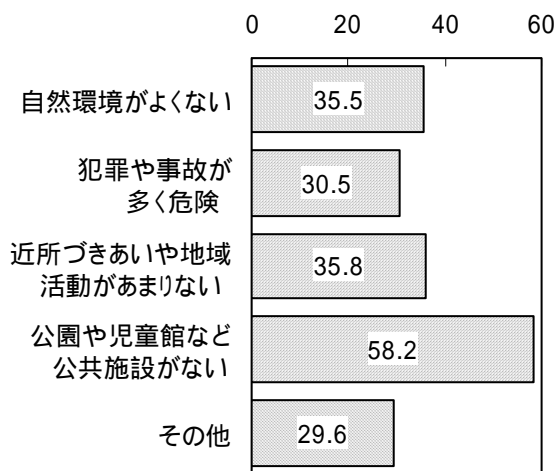
## 子育てしやすい理由・子育てしにくい理由

問 29 子育てしやすい理由



(問 29 = 回答者数 625 人、複数回答  
子育てしやすいと感じる人)

問 30 子育てしにくい理由



(問 30 = 回答者数 318 人、複数回答  
子育てしにくいと感じる人)

自然環境、公園・児童館など公共施設は、子育てしやすさを分ける指標のひとつ。

住んでいる地区が「子育てしやすい」と感じている人のうち約5割が、その理由として「自然環境がいい」ことを指摘し、約4割は「公園や児童館など公共施設が近い」ことを挙げている。子育てしやすい理由のうち「その他」の主な記入内容は、「近所に同じくらいの年頃の児童がいる」や「病院が近い」などが目立つ。

一方、住んでいる地区が「子育てしにくい」と感じている人のうち約6割が、その理由として「公園や児童館など公共施設がない」ことを問題として指摘している。子育てしにくい理由のうち「その他」の主な記入内容は、「近所に同じくらいの年頃の児童が(少)ない」や「公園・広場があっても遊びやすい状態でない」、「交通量が多い」などの意見が目立つ。

## 住んでいる地区

問24 お住まいの地区はどちらですか？

富洲原	2.5	三重	7.7
富田	4.0	県	1.7
羽津	5.9	八郷	3.8
常磐	10.5	下野	1.4
日永	6.6	大矢知	6.3
四郷	7.1	河原田	1.3
内部	7.1	水沢	1.2
塩浜	1.3	保々	3.2
小山田	1.5	海蔵	4.4
川島	5.2	橋北	2.0
神前	3.3	中部	5.8
桜	4.6	知らない	1.4

(回答者数 972 人)

市内全域から回答を得た。おおよそ就学前児童の人口比どおりの分布。

回答は、市内全域から得たものである。就学前児童の人口比どおりの分布になっている。

## (2) 親同士の仲間づくり

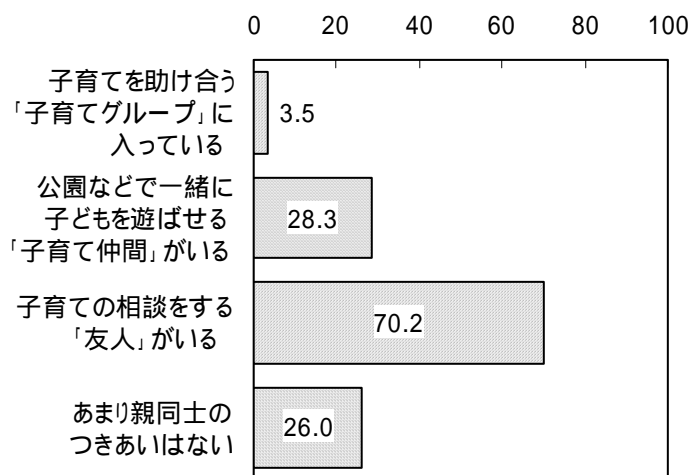
### まとめ

7割には相談できる「友人」がいるが、親同士のつきあいがない家庭は3割弱。

「子育てグループ」に条件が合えば参加したい人は各年齢層の6～8割。相談できる人がいるのは9割以上、預かってもらえる人がいるのは8割。相談によってあげる人は6割弱、子どもを預かることがあるのは3割。

### 親同士のグループ

問 31 あなたは、子どもの親同士のグループに参加したり、親同士のつきあいをしていますか？



(回答者数 976 人、複数回答)

7割には相談できる「友人」がいるが、親同士のつきあいがない家庭は3割弱。

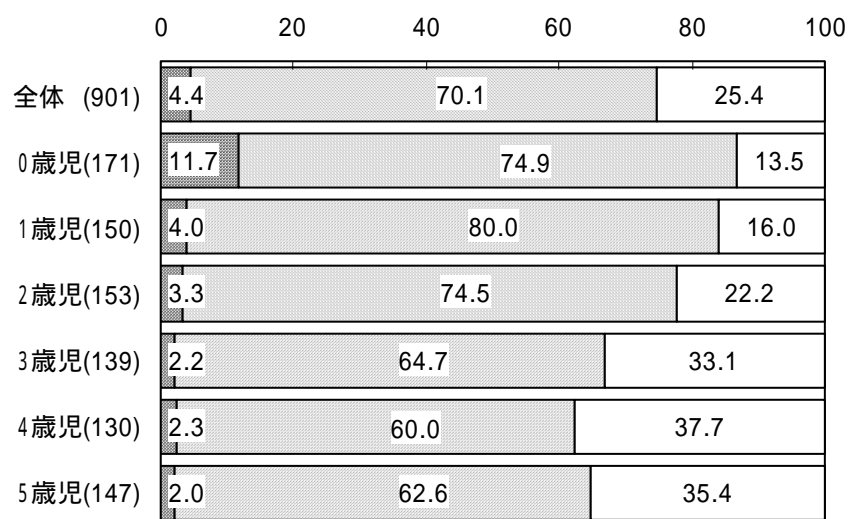
「子育ての相談をする『友人』がいる」とする家庭・保護者は約7割であり、「公園などで一緒に子どもを遊ばせる『子育て仲間』がいる」のは約3割である。「子育てを助け合う『子育てグループ』に入っている」とする保護者は、ごく少数事例であり1割に満たない。

一方、「あまり親同士のつきあいはない」とする家庭・保護者は、約3割に及んでい

## グループに参加したいか

〔年齢別〕

問 32 「子育てグループ」があれば参加したいですか？



■ 参加したい □ 条件が合えば参加したい □ 参加したくない

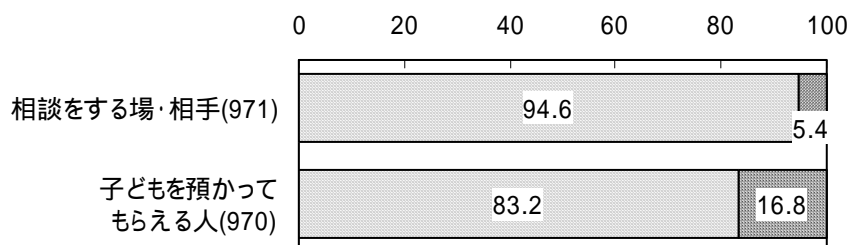
(カッコ内は回答者数、前問で「仲間」「友人」がいる・つきあがない人)

「子育てグループ」に条件が合えば参加したい人は各年齢層の6～8割。

問 31 で、「仲間」「友人」がいる、または、つきあがない人について、「子育てグループがあれば」参加したいかを尋ねたところ、児童の年齢層にかかわらず6～8割台の家庭・保護者は、「条件が合えば参加したい」としている。特に、0歳児では「参加したい」とする人が約1割に及んでいる。

## 相談できる人・預かってもらえる人

問 33 あなたには、育児のことで相談にのってもらったり、子どもを預かってもらえる人はいますか？



□ いる ■ いない

(カッコ内は回答者数)

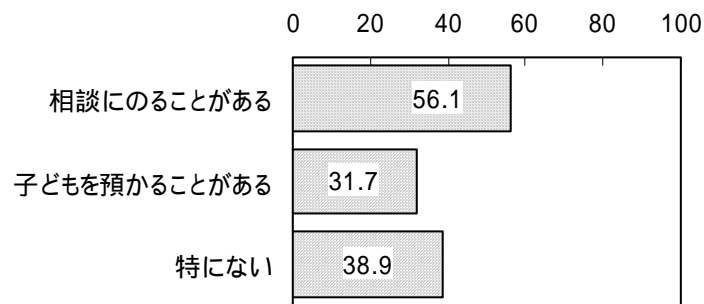
相談できる人がいるのは9割以上、預かってもらえる人がいるのは8割。

育児のことで「相談をする場・相手」が「いる」家庭は、回答者のほとんどである。しかし、ごく少数事例であるが、そのような人が「いない」とする家庭・保護者も見受けられる。

また、「子どもを預かってもらえる人」が「いる」のは約8割であるが、約2割の家庭・保護者では、そのような人が「いない」としている。

## 知人・親族のため自分が相談にのること・預かること

問 34 あなた自身が、知人や親族の子育ての相談にのったり、子どもを預かることはありますか？



(回答者数 965 人、複数回答)

相談にのってあげる人は6割弱、子どもを預かることがあるのは3割。

回答者自身が、知人や親族の子育ての「相談にのることがある」のは、約6割である。また、知人や親族の「子どもを預かることがある」のは、約3割である。

一方、そのような機会が「特にない」との回答は約4割である。



### (3)外出時の困りごと

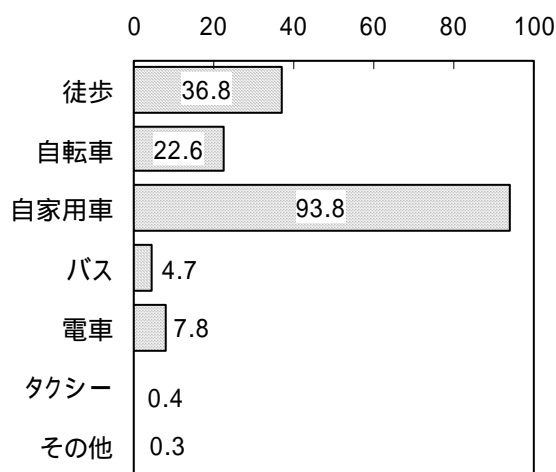
#### まとめ

子どもと出かけるときに自家用車を利用は9割強、電車・バスを利用は、それぞれ1割未満。

子どもの遊び場がない・外出先の危険を感じる人は3割台。

### 子どもと出かけるときの交通手段

問40 普段、子どもと出かける時は、どの交通手段を使いますか？



(回答者数 978 人、複数回答)

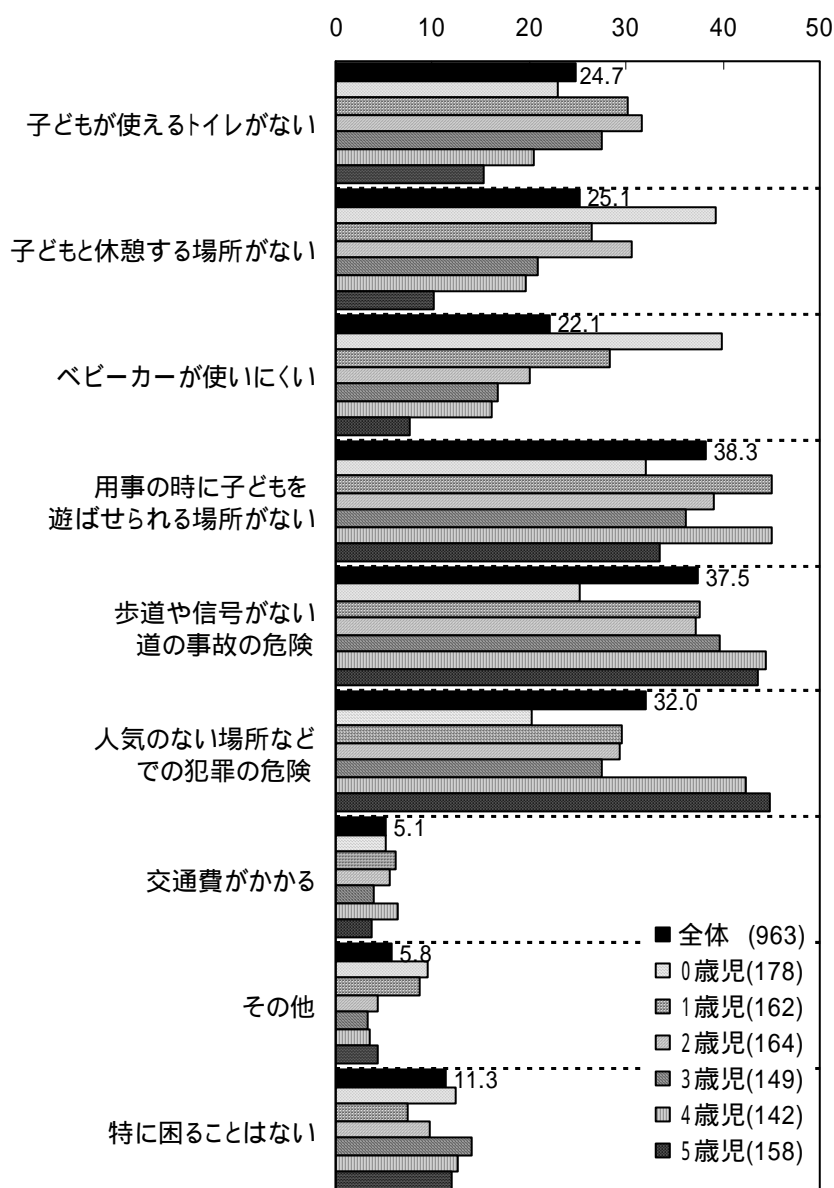
子どもと出かけるときに自家用車を利用は9割強、  
電車・バスを利用は、それぞれ1割未満。

「子どもと出かける時」の外出手段は、9割以上が「自家用車」を用いている。また、「バス」や「電車」を使う家庭も、それぞれ1割未満ではあるが見受けられる。

## 出かけるとき困ること

〔年齢別〕

問 41 子どもと出かける時や、子どもが外で過ごす時、困ることは何ですか？



(カッコ内は回答者数、複数回答、全体のみ数値を記載、数値を省略した項目は資料編を参照)

### 子どもの遊び場がない・外出先の危険を感じる人は3割台。

子どもと出かける時や、子どもが外で過ごす時、困ることとして、就学前児童をもつ家庭・保護者が指摘している問題点は、回答者の約4割が「用事の際に子どもを遊ばせられる場所がない」や「歩道や信号がない道の事故の危険」などを挙げている。

児童の年齢が高くなるほど問題点として指摘する家庭・保護者が多くなるのは、「歩道や信号がない道の事故の危険」のほか「人気のない場所などでの犯罪の危険」などである。逆に、児童の年齢が低いほど指摘されるのは、「子どもと休憩する場所がない」「ベビーカーが使いにくい」などの問題点である。

## 4. 父母の就労と子育て意識

### (1) 子育ての悩み

#### まとめ

「ゆっくりとした気分」で子どもと向き合えない人も、わずかだがいる。

「何とも言えない」とする人は約3割。

育児に自信を持ってないことがある人は約4割。「何とも言えない」とする人も4割弱。

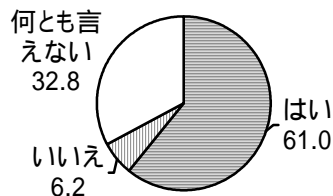
感情的に怒ることがある人は7割。虐待が疑われる行為が「ない」と言う人は3割。

虐待しているかもと意識している人は1割。「何とも言えない」とする人は2割強。

子育ての悩みがない人は1割。悩みは食生活・安全・健康など育児全般に及ぶ。

### ゆっくりとした気分子どもと向き合うこと

問35 あなたは、ゆっくりとした気分でお子さんと向き合うことがありますか？



(回答者数 981 人)

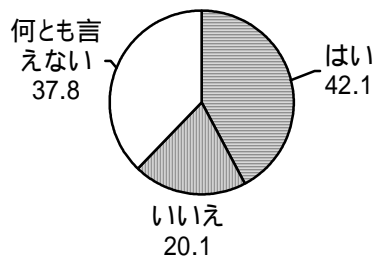
「ゆっくりとした気分」で子どもと向き合えない人も、わずかだがいる。

「何とも言えない」とする人は約3割。

「ゆっくりとした気分」で子どもと向き合うことがある(「はい」とする家庭・保護者は、約6割である。一方で、そのような時間をもてない(「いいえ」とする家庭・保護者が、1割未満ではあるが、一定数いることが分かる。また、「何とも言えない」と回答しづかった家庭・保護者は、約3割である。

## 育児に自信がもてないこと

問 36 あなたは、育児に自信が持てないことがありますか？



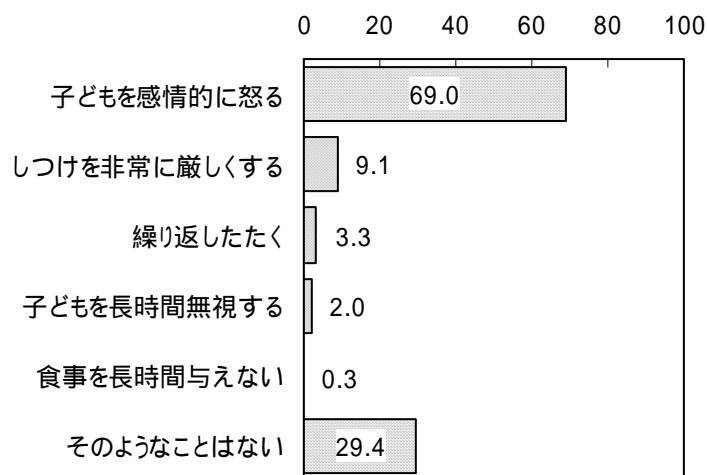
(回答者数 981 人)

育児に自信が持てないことがある人は約 4 割。  
「何とも言えない」とする人も 4 割弱。

「育児に自信が持てないこと」がある（「はい」）家庭・保護者は、約 4 割に及んでいる。また、「何とも言えない」と回答しづらかった家庭・保護者も 4 割弱いる。

## 子どもとの接し方

問 37 あなたは、子どもに次のような接し方をすることがありますか？



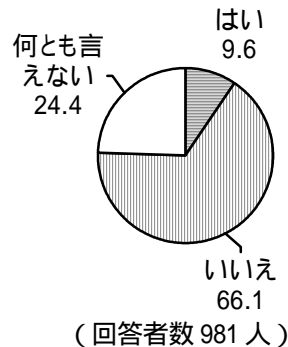
(回答者数 963 人、複数回答)

感情的に怒ることがある人は 7 割。  
虐待が疑われる行為が「ない」と言う人は 3 割。

子どもとの接し方について「子どもを感情的に怒る」ことがあるとする家庭・保護者は約 7 割に及んでいる。少数事例ではあるものの、「しつこく非常に厳しくする」「繰り返したたく」「子どもを長時間無視する」「食事を長時間与えない」ことがある家庭・保護者も、見受けられる。

## 虐待の意識

問 38 自分が、子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか？

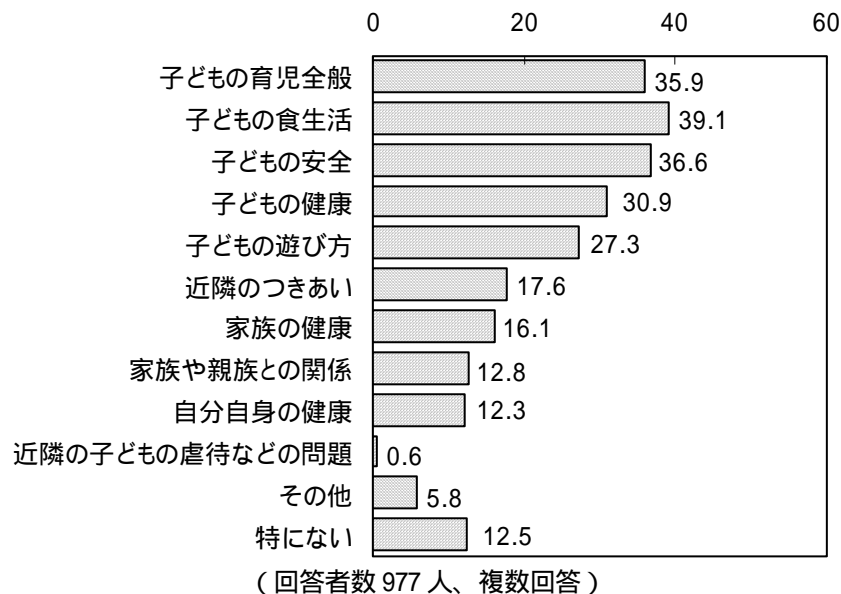


虐待しているかもと意識している人は1割。  
「何とも言えない」とする人は2割強。

「子どもを虐待しているのではないかと思うこと」がない(「いいえ」とする家庭・保護者は約7割である。しかしながら、「何とも言えない」と回答しづらかった家庭・保護者が2割強、明確に「はい」と回答した家庭・保護者が約1割である。

## 子育ての悩み・問題

問 39 あなたご自身が、子育てについて感じている悩みや問題はありますか？



子育ての悩みがない人は1割。悩みは食生活・安全・健康など育児全般に及ぶ。

「子育てについて感じている悩みや問題」として、多くの家庭・保護者が指摘するのは、子どもの「育児全般」「食生活」「安全」「健康」「遊び方」などであり、それぞれ約3～4割である。しかし、「近隣のつきあい」「家族や親族との関係」といった社会的なことから指摘する保護者もそれぞれ1～2割存在する。

## (2) 母親の就労と子育て実態

### まとめ

本市出身の母親は4割強。就職または結婚後に転入は、合わせて4割強。パートの仕事は、1～3歳児の母親は1割台だが、5歳児では3割に。

仕事をしている母親の3割強は事務職、3割弱は専門職、2割強はサービス・販売職。

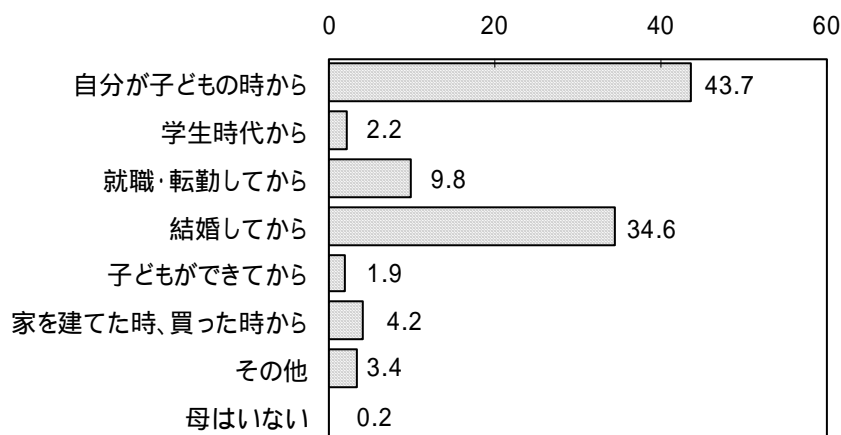
仕事をしている母親の約3割は、子どもの世話のための休み・早退などが難しい。

母親が子育てをしながら仕事をするためには、夫・勤め先・親族などの理解・協力が必要とする人は過半数。

母親が子どもと一緒に過ごす時間は、1日6時間未満が4割、12時間以上が2割。

### 母親が本市で住まい始めた時期

問43 お母さんは、四日市市には、いつからお住まいですか？



(回答者数 981 人)

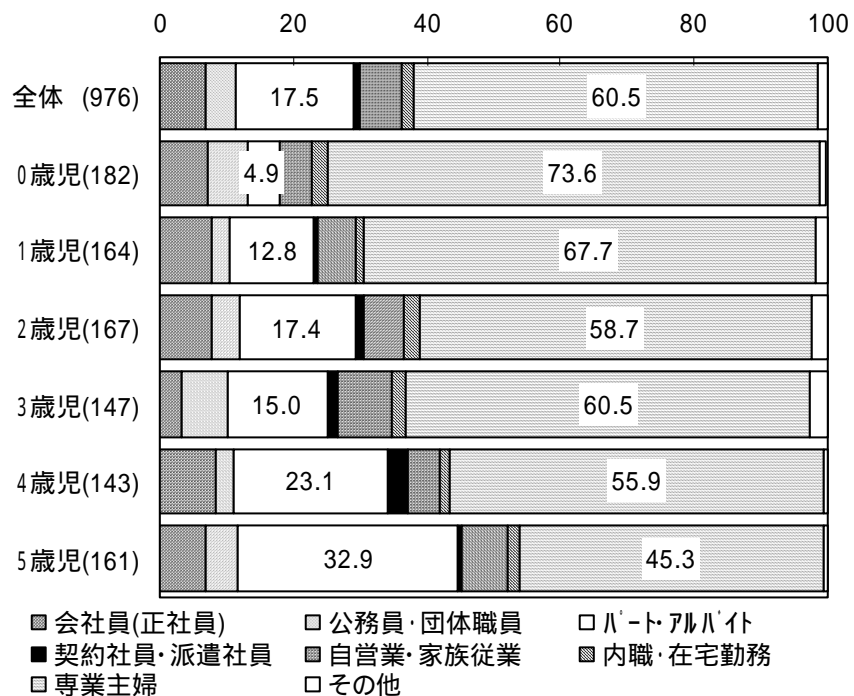
本市出身の母親は4割強。  
就職または結婚後に転入は、合わせて4割強。

就学前児童の母親が本市で住まい始めた時期は、約4割は「自分が子どもの時から」としている。一方、「就職・転勤してから」「結婚してから」「子どもができてから」など(市内で子ども時代を過ごさずに)大人になってから本市で住まい始めた人も少なくない。なお、ごく少数事例であるが「母はいない」家庭もある。

## 母親の仕事

〔子の年齢別〕

問 44 お母さんのお仕事は何ですか？



(かっこ内は回答者数、母親のいる人、数値を省略した項目は資料編を参照)

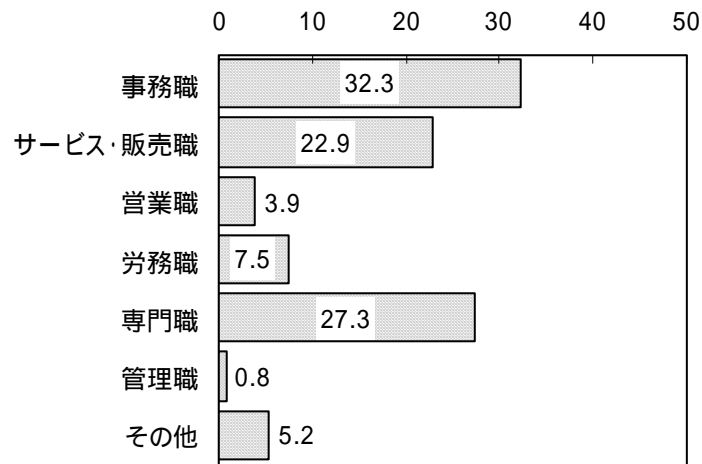
パートの仕事は、1～3歳児の母親は1割台だが、5歳児では3割に。

就学前児童の母親は、全体の約6割が「専業主婦」である。

児童の年齢層別にみると、0歳児では7割強が「専業主婦」であるが、1歳児では7割弱、3歳児では6割弱、5歳児では半数を下回っている。一方、児童の年齢が上がるにしたがって比率が大きくなるのは「パート・アルバイト」で、0歳児では1割未満、1～3歳児では1割台であるが、4歳児では約2割、5歳児では約3割である。

## 母親の職業

問 45 職種は何ですか？



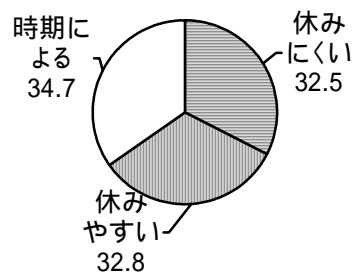
(回答者数 362 人、就労している母親)

仕事をしている母親の 3 割強は事務職、3 割弱は専門職、  
2 割強はサービス・販売職。

仕事をしている母親の 3 割強は「事務職」、3 割弱は「専門職」に就いており、約 2 割は「サービス・販売職」である。少数事例ではあるが、「営業職」や「労務職」に就き仕事をしている母親もいる。

## 母親が子どもの世話で仕事を休むこと

問 47 子どもの世話のために、仕事を休んだり早退することは難しいですか？



(回答者数 360 人、就労している母親)

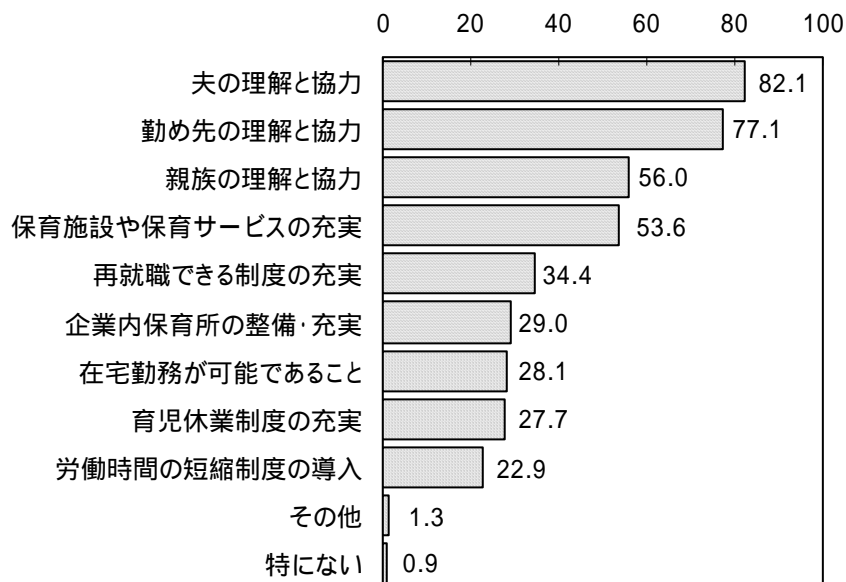
仕事をしている母親の約 3 割は、子どもの世話のための  
休み・早退などが難しい。

仕事をしている母親に「子どもの世話のために、仕事を休んだり早退すること」について尋ねたところ、「休みやすい」とする母親が約 3 割いるものの、「休みにくい」「時期による」とする人も、それぞれ約 3 割ずついる。



## 母親が仕事をするため必要なこと

問 48 子育てをしながら仕事をする上で、必要なことは何ですか？



(回答者数 459 人、母親のいる人、複数回答)

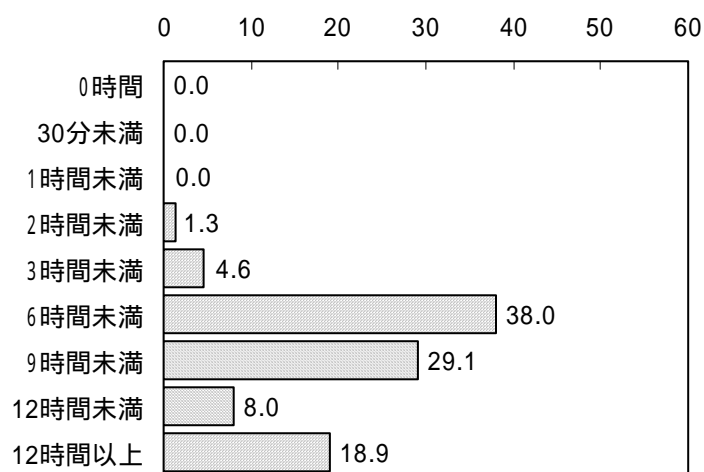
母親が子育てをしながら仕事をするためには、夫・勤め先・親族などの理解・協力が必要とする人は過半数。

母親が「子育てをしながら仕事をする」上で必要なこととして、多くの人が指摘するのは、夫・勤め先・親族などの「理解と協力」という点であり、それぞれ過半数に及んでいる。

「保育施設や保育サービスの充実」を挙げるのは過半数であるが、「再就職できる制度の充実」「企業内保育所の整備・充実」「在宅勤務が可能であること」「育児休業制度の充実」「労働時間の短縮制度の導入」など、社会全体での対応も求められている。

## 母親が子どもと過ごす時間

問 49 普段の平日で、お母さんが子どもと過ごす時間は何時間ですか？



(回答者数 460 人、母親のいる人)

母親が子どもと一緒に過ごす時間は、  
1日6時間未満が4割、12時間以上が2割。

母親が子どもと一緒にいる時間は、3時間以上6時間未満が約4割、6時間以上9時間未満が約3割である。また、12時間以上とする母親は約2割である。

### (3)父親の就労と子育て実態

#### まとめ

父親の7割前後は会社員として働いている。

仕事をしている父親の4割弱は、労務職として働く。

仕事をしている父親の過半数は、子どもの世話のために仕事を休みにくい。  
父親が子育てをしながら仕事をするためには、家族・勤め先の理解・協力が必要とする人は過半数。

父親が子どもと過ごす時間は、6時間未満がほとんど。

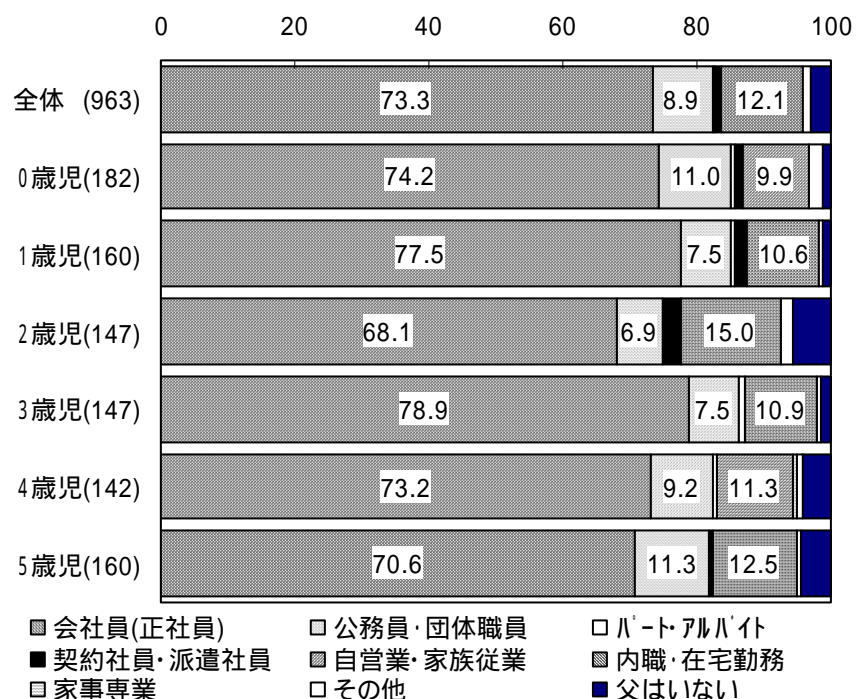
育児を「ほとんどしていない」と見られている父親は2割弱。

子どもとほとんど遊んでいない父親は約1割。

#### 父親の仕事

[子の年齢別]

問 50 お父さんのお仕事は何ですか？



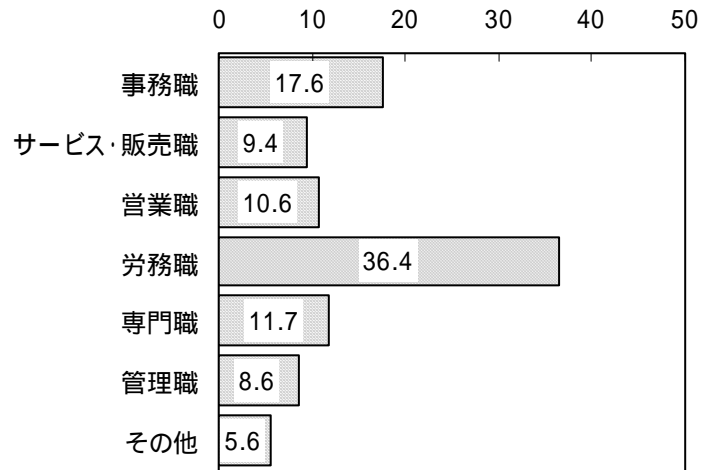
(カッコ内は回答者数、数値を省略した項目は資料編を参照)

父親の7割前後は会社員として働いている。

父親は、母親の就労状態とは異なり、「会社員」として働く人の割合が高く、児童の年齢層にかかわらず概ね一定である。母親で多かった家事専業(「専業主婦」)や「パート・アルバイト」は、父親ではごくわずかである。

## 父親の職業

問 51 働いている方の職種は何ですか？



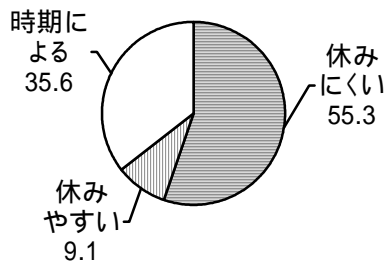
(回答者数 922 人、就労している父親)

-----  
仕事をしている父親の 4 割弱は労務職として働く。  
-----

仕事をしている父親の、約 4 割は「労務職」に就いている。仕事をしている母親で約 3 割であった「事務職」・「専門職」に就いている父親は、1 割台にとどまっている。

## 父親が子どもの世話で仕事を休むこと

問 53 子どもの世話のために、仕事を休んだり早退することは難しいですか？



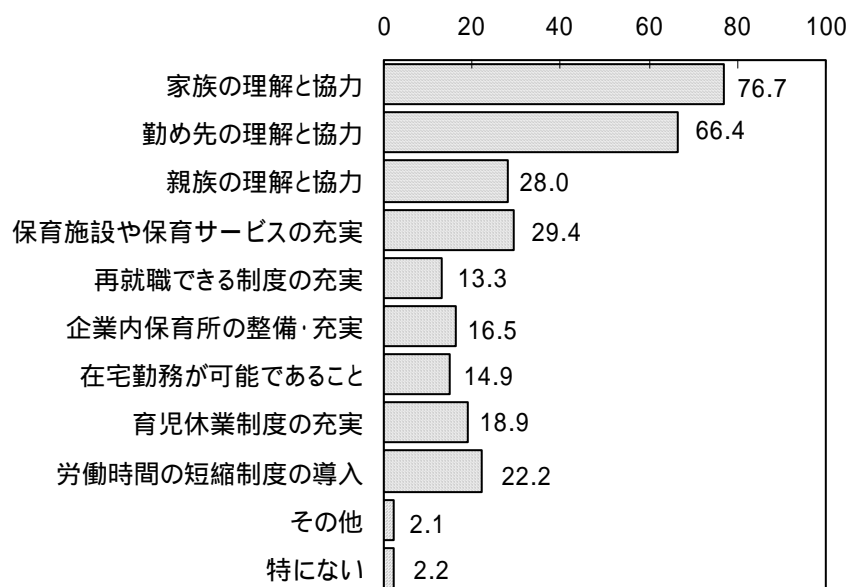
(回答者数 924、就労している父親)

-----  
仕事をしている父親の過半数は、子どもの世話のために仕事を休みにくい。  
-----

仕事をしている父親に「子どもの世話のために、仕事を休んだり早退すること」について尋ねたところ、「休みやすい」とする父親は約 1 割にとどまっている。「休みにくい」とする人は、母親よりも多く、過半数を超えている。

## 父親が仕事をするため必要なこと

問 54 子育てをしながら仕事をする上で、必要なことは何ですか？



(回答者数 863 人、複数回答、父親のいる人)

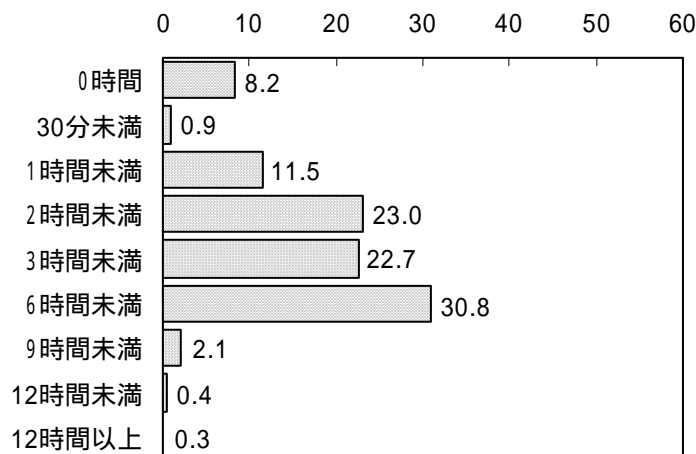
父親が子育てをしながら仕事をするためには、  
家族・勤め先の理解・協力が必要とする人は過半数。

父親が「子育てをしながら仕事をする」上で必要なことは、母親と同様、家族や勤め先の「理解と協力」を多くの人が指摘しており、また、「保育施設や保育サービスの充実」を挙げるのは約3割である。また、「再就職できる制度の充実」「企業内保育所の整備・充実」「在宅勤務が可能であること」「育児休業制度の充実」「労働時間の短縮制度の導入」など社会全体での対応も求められている。

なお、母親と比べ「親族の理解と協力」を指摘する人が少ないことは特徴的である。

## 父親が子どもと過ごす時間

問 55 普段の平日で、お父さんが子どもと過ごす時間は何時間ですか？



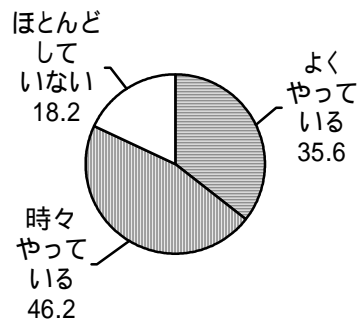
(回答者数 912 人、父親のいる人)

父親が子どもと過ごす時間は、6時間未満がほとんど。

父親が子どもと一緒にいる時間は、3時間以上6時間未満が3割であり、1時間以上2時間未満が約2割、30分以上1時間未満が約1割などである。1日あたり6時間未満という父親がほとんどであり、母親の時間と大きく異なっている。

## 父親は育児をよくするか

問56 お父親さんは育児をよくしていますか？



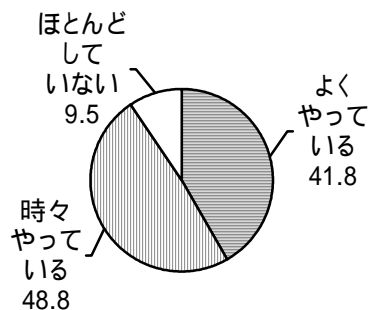
(回答者数 930 人、父親のいる人)

育児を「ほとんどしていない」と見られている父親は2割弱。

回答者のほとんどは母親であったが、その回答者に父親が「育児をよくしているか」尋ねたところ、「よくやっている」と感じているのは約4割、「時々やっている」とするのは4割を超えている。一方、「ほとんどしていない」とする人も少なくない。

## 父親は子どもとよく遊ぶか

問57 お父さんは、お子さんとよく遊んでいますか？



(回答者数 931 人、父親のいる人)

子どもとほとんど遊んでいない父親は約1割。

父親が「よく遊んでいるか」を尋ねたところ、「やっている」とする人の割合は、「育児」に比べ、わずかではあるが大きくなっている。

## (4) 父母の就労時間帯

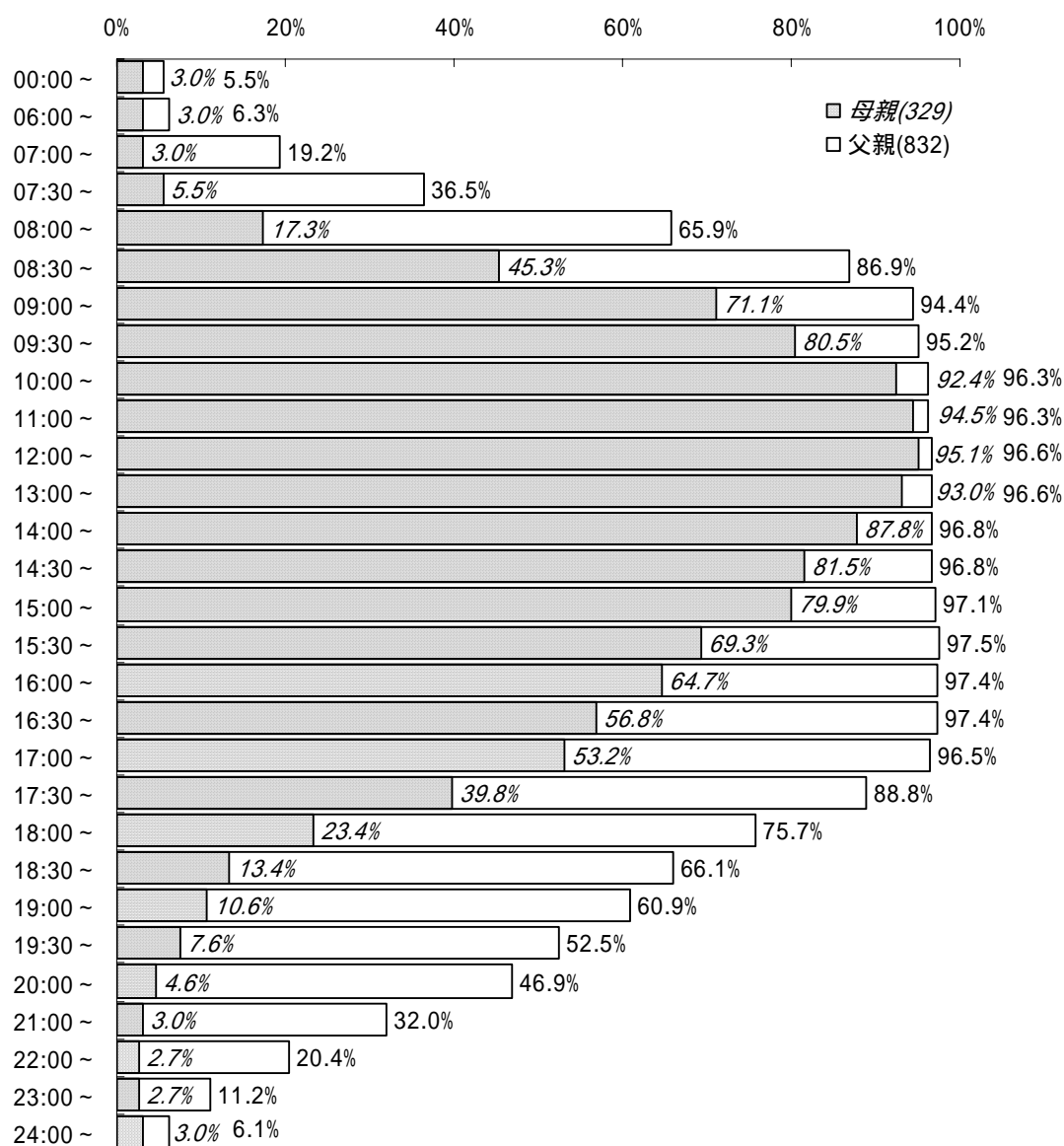
### まとめ

母親が仕事をしている時間帯のピークは、10時から14時。

### 父母の就労時間帯

問 46 就労日数と時間はどのくらいですか？（働いている母親）

問 52 働いている方の就労日数と時間はどのくらいですか？（働いている父親）



（カッコ内は回答者数、就労している母親・就労している父親）

-----  
母親が仕事をしている時間帯のピークは、10時から14時。  
-----

仕事をしている母親と父親のうち、就労している時間帯別に就労者の割合を整理したものが左図である。(100%は、仕事に従事している母親・父親)

仕事をしている父親の9割以上は、9時から17時までの時間帯に就労している。それに対し、仕事をしている母親の9割以上が就労しているのは、10時から13時台である。

また、7～8時台と16～21時台は、就労している人の割合について父母の間の開きが大きい。この時間帯は、後掲の保育園・幼稚園の延長希望が強い時間帯に重なっている。

なお、24時以降や6時以前にも就労している母親・父親があることが分かる。



## 5. 保育園・幼稚園等の利用と希望

### (1) 通園の現状

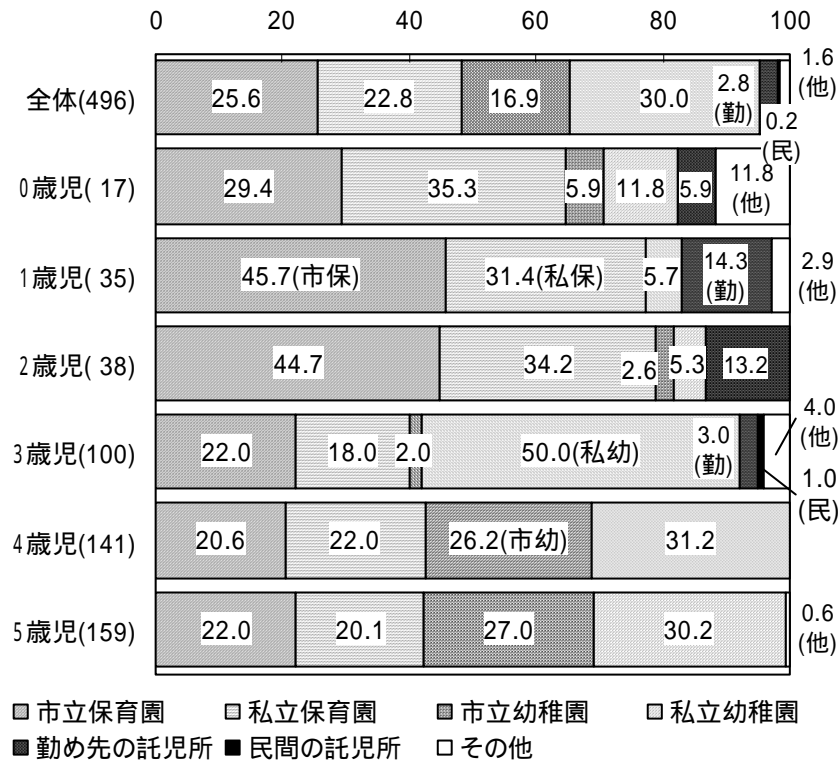
#### まとめ

預けられている1・2歳児の8割弱は保育園、3歳児の5割は私立幼稚園。  
預けている時間は、市立幼稚園は14時前半まで、市立保育園は16時前半までが多い。

#### 通園・託児先

〔子の年齢別〕

問12 現在、どちらの園や託児所などに預けていらっしゃいますか？



(カッコ内は回答者数、園や託児所などに預けている人、数値を省略した項目は資料編を参照)

預けられている1・2歳児の8割弱は保育園、3歳児の5割は私立幼稚園。

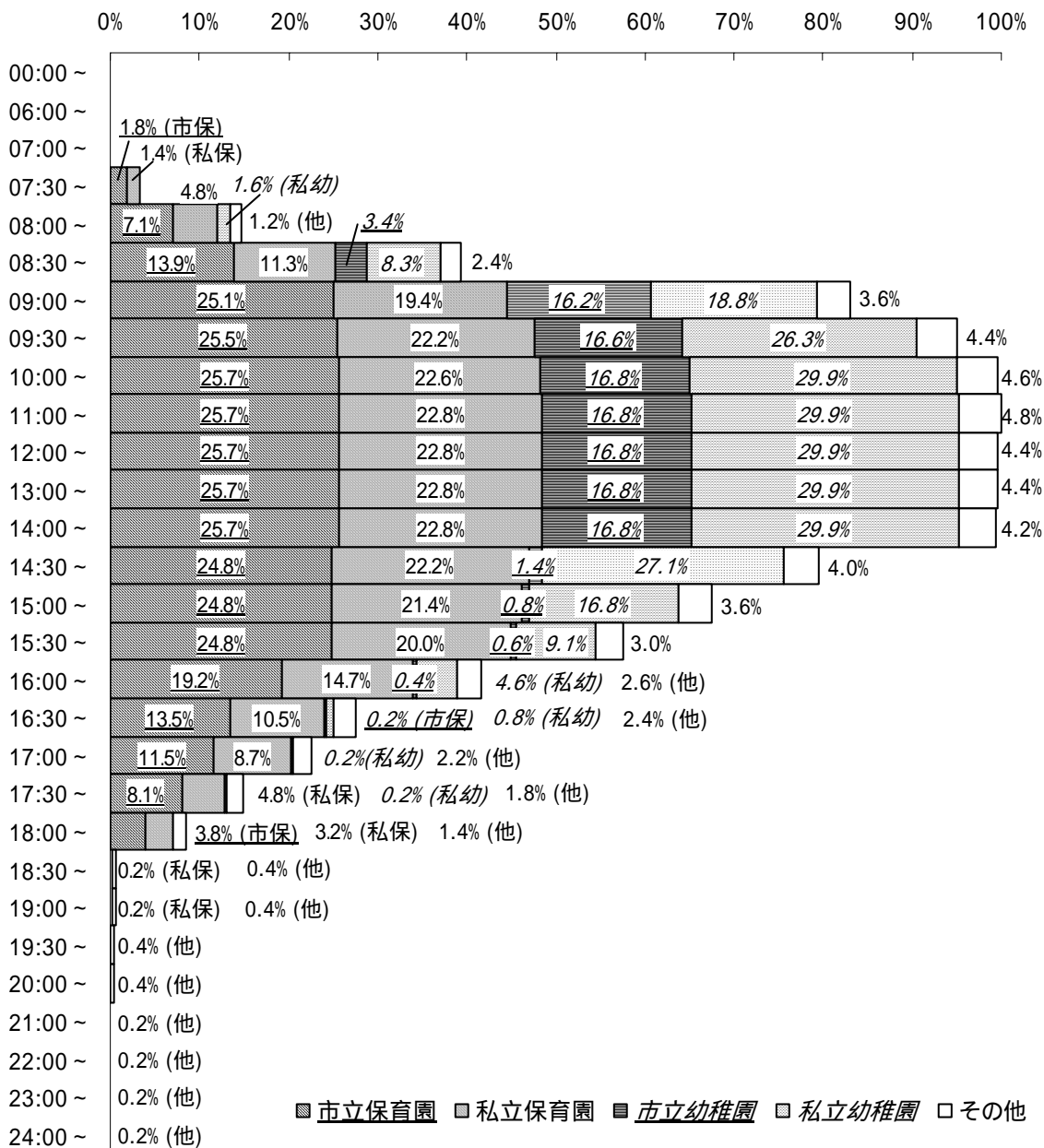
問9で「保育園や幼稚園や託児所」に預けているとされた児童のうち、その預け先の内訳は、「市立保育園」「私立保育園」がそれぞれ2割台、「市立幼稚園」は1割台、「私立幼稚園」は約3割であるが、少数ではあるものの「勤め先の託児所」、「民間の託児所」などに預けている事例も見受けられる。

預けられている児童の年齢層別にみると、0～2歳児では市立・私立の保育園で過半数を占めており、3歳児では私立幼稚園が約半数に及び、4～5歳児では市立・私立の保育園・幼稚園がそれぞれ2～3割ずつを占めるに至る。

# 預けている時間

〔通園先別〕

問 13 預けている日数と時間はどのくらいですか？



(回答者数 495 人、園や託児所などに預けている人)

-----  
預けている時間は、市立幼稚園は 14 時前半まで、  
市立保育園は 16 時前半までが多い。  
-----

保育園・幼稚園等に預けているケースのうち、その時間帯別に整理してみると、ほとんど全てが 10 時から 14 時頃までの間に預けており、9 時以前や 14 時以降は、預け先の構成比が異なる。

8 時以前では、市立・私立の保育園で預かっており、8 時から 9 時までの時間帯で、預ける人の割合が各施設で増えている。

午後の利用者に着目すると、14 時後半で市立幼稚園の利用者が減少するが、私立幼稚園は 17 時台までかけて徐々に減少している。保育園の利用者は、16 時以降で徐々に減少している。18 時以降では、市立・私立の保育園と他の民間施設で預かっている。19 時 30 分以降は、今回調査の回答者の範囲では、民間施設だけが預かっている。

いずれの時間帯においても、市立保育園・市立幼稚園に預けられている児童と同じ程度またはそれ以上の児童が、私立の保育園・幼稚園や他の民間施設に預けられていることが分かる。

## (2)通園先の現状への評価

### まとめ

通園・託児先は「家から近いから」選んだ人が6割のほか、選択理由は多様。

「園舎や園庭、遊具」に不満は、市立保育園利用者の3割強。

「保育や幼児教育の内容」に8割以上は満足。不満は、市立保育園利用者の2割、その他は1割前後。

「保護者への連絡」に不満は、いずれの施設の利用者でも1割台。

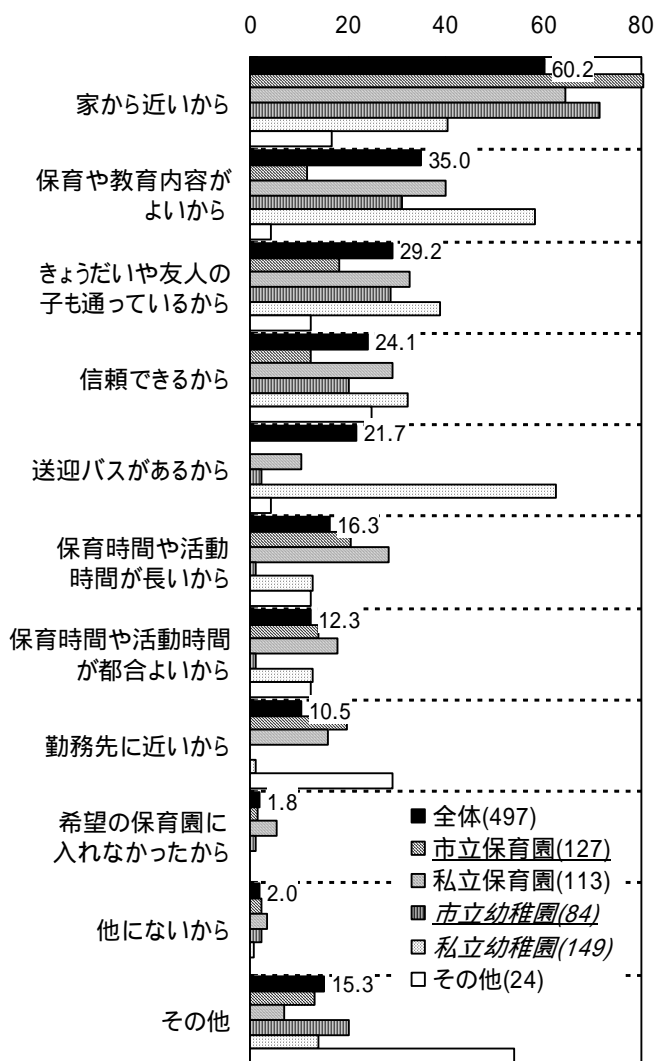
「安全への配慮や危険管理」に不満は市立保育園利用者の2割、大変満足は私立保育園・私立幼稚園利用者のそれぞれ2割。

「食事やおやつの内容」に大変満足は保育園利用者の3割強、不満は幼稚園の3割前後。

### 通園・託児先を選んだ理由

〔通園先別〕

問 14 その保育園や幼稚園などを選んだ理由は何ですか？



(回答者数 497 人、複数回答、園や託児所などに預けている人全体のみ数値を記載、数値を省略した項目は資料編を参照)

通園・託児先は「家から近いから」選んだ人が6割のほか、選択理由は多様。

通園先の「保育園や幼稚園などを選んだ理由」は、過半数の家庭・保護者が「家から近いから」としている。また、「送迎バスがある」ことのほか、「保育時間や活動時間」が「長い」または「都合よい」などサービスの諸条件への着目も少なくない。

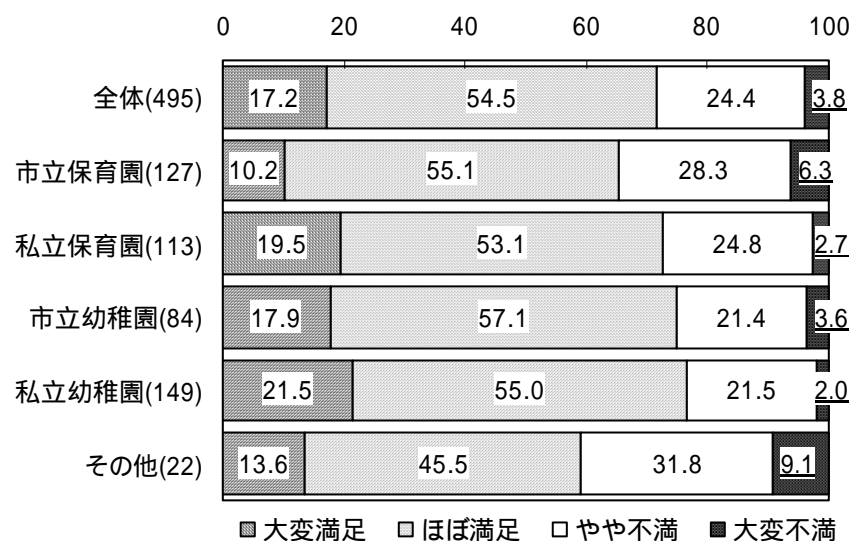
ごく少数事例であるが「希望の保育園に入れなかったから」「他にないから」など、選択肢が限られていることを示唆する回答も見受けられる。

## 園舎や園庭、遊具への評価

〔通園先別〕

問 15 現在通っている保育園や幼稚園などについて、どのように感じていますか？

(1) 園舎や園庭、遊具



(カッコ内は回答者数、園や託児所などに預けている人)

「園舎や園庭、遊具」に不満は、市立保育園利用者の3割強。

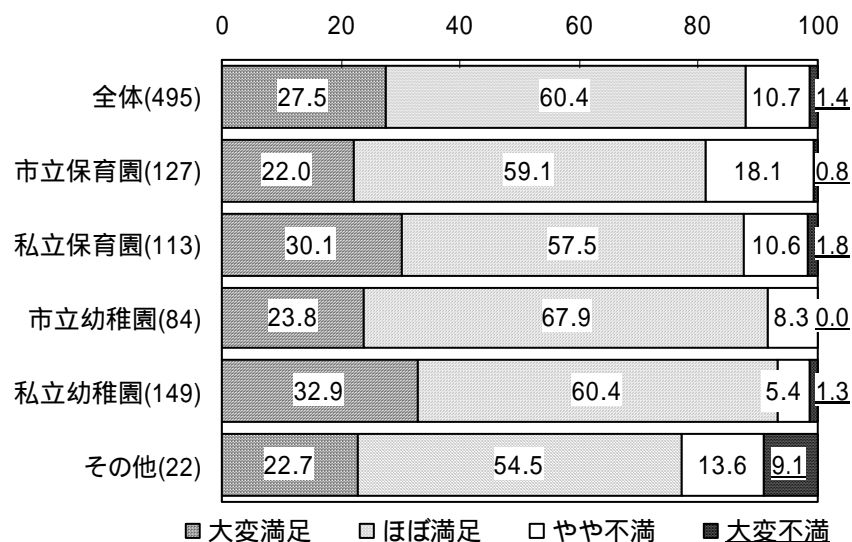
通園先の「園舎や園庭、遊具」について、5割前後は「ほぼ満足」し、「大変満足」と合わせると過半数が満足している。しかし、市立保育園では「不満」とする人が、約3割を占めている。

## 保育や幼児教育の内容への評価

〔通園先別〕

問 15 現在通っている保育園や幼稚園などについて、どのように感じていますか？

(2) 保育や幼児教育の内容



(カッコ内は回答者数、園や託児所などに預けている人)

「保育や幼児教育の内容」に8割以上は満足。  
不満は、市立保育園利用者の2割、その他は1割前後。

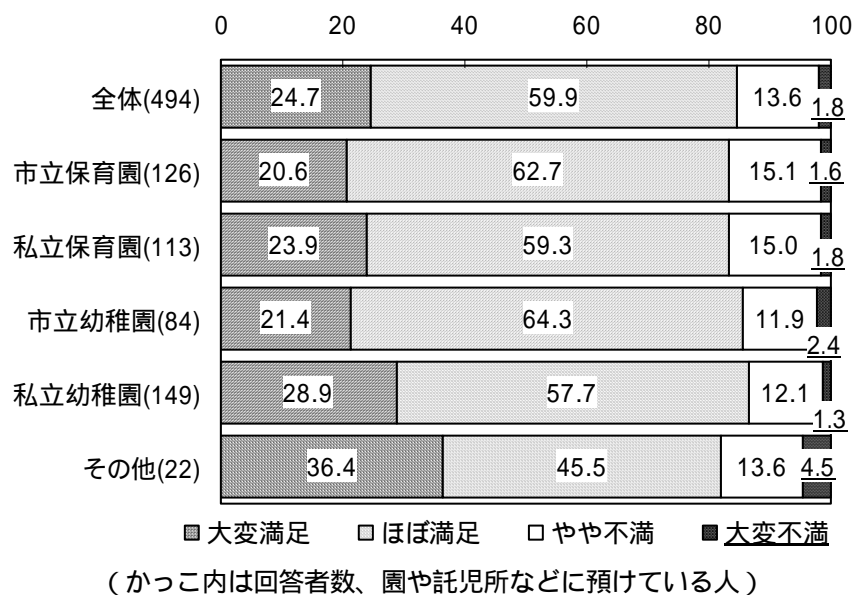
通園先の「保育や幼児教育の内容」について、各通園先の5～6割は「ほぼ満足」し、「大変満足」と合わせると8～9割が満足している。しかし、市立保育園では「不満」とする人が約2割いる。一方、幼稚園では「不満」な人は1割に満たない。

## 保護者への連絡への評価

〔通園先別〕

問 15 現在通っている保育園や幼稚園などについて、どのように感じていますか？

(3)保護者への連絡



「保護者への連絡」に不満は、いずれの施設の利用者でも1割台。

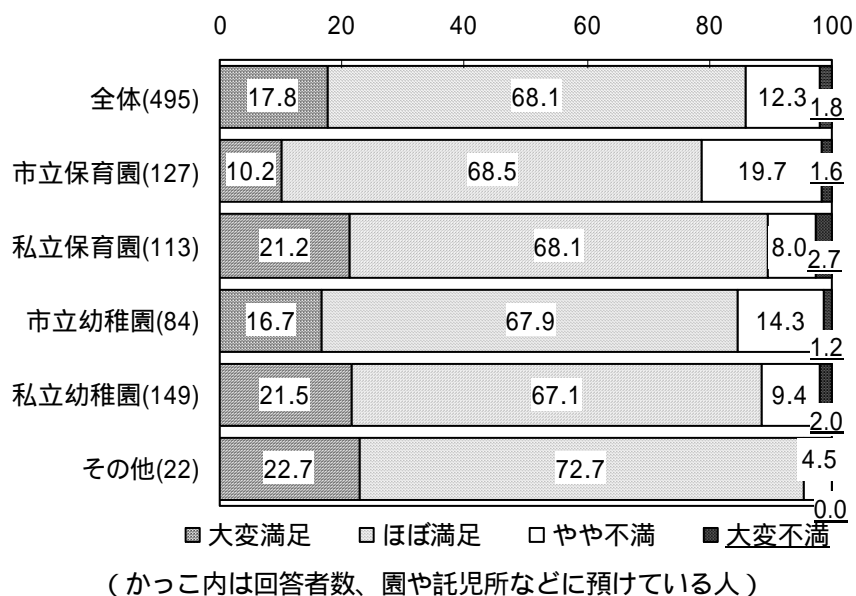
通園先の「保護者への連絡」については、他の観点と比べて施設間の差を見いだすににくいですが、「保護者の連絡」に「大変満足」している人は、私立幼稚園では約3割を占めている。

## 安全への配慮や危険管理への評価

〔通園先別〕

問 15 現在通っている保育園や幼稚園などについて、どのように感じていますか？

(4)安全への配慮や危険管理



「安全への配慮や危険管理」に不満は市立保育園利用者の2割、  
 大変満足は私立保育園・幼稚園利用者のそれぞれ2割。

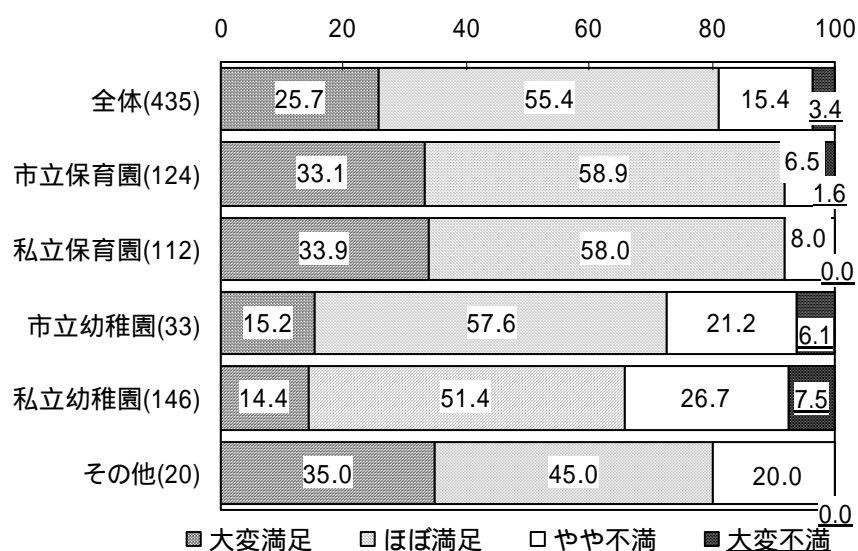
通園先の「安全への配慮や危険管理」に「大変満足」している人は、市立施設より  
 私立施設の方が多く見受けられる。保育園では、市立・私立間で1割の開きがある。

## 食事やおやつの内容への評価

〔通園先別〕

問 15 現在通っている保育園や幼稚園などについて、どのように感じていますか？

(5) 食事やおやつの内容



(カッコ内は回答者数、園や託児所などに預けている人)

「食事やおやつの内容」に大変満足は保育園利用者の3割強、  
 不満は幼稚園の3割前後。

通園先の「食事やおやつの内容」については、保育園では「大変満足」とする人が  
 約3割を占め、「ほぼ満足」と合わせると9割以上が満足している。



### (3) 今後の希望

#### まとめ

延長の希望者は、市立幼稚園利用者の 8 割弱。私立保育園利用者の 8 割は現状肯定。

市立保育園の希望時間帯は 7 時から 20 時台まで、市立幼稚園でも 7 時から 19 時台までの希望が存在。

市立保育園利用者の 2 割台は、日曜・祝日の利用を希望。

市立幼稚園利用者の約 6 割は、もっと早い年齢からの利用を希望。

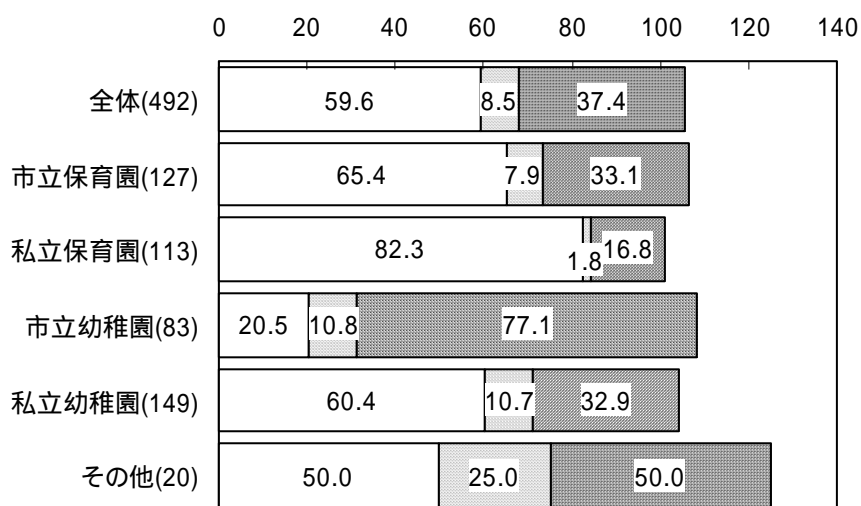
市立保育園利用者は 16 時以降で、通園実態と延長希望の開きが拡大。

市立幼稚園利用者は、その半数以上が 15 時台前半までを希望。

#### 延長の希望

〔通園先別〕

問 16 保育や利用時間の延長などの希望はありますか？



□このままでよい □もっと早い時間から ■もっと遅い時間まで

(かっこ内は回答者数、複数回答、園や託児所などに預けている人)

延長の希望者は、市立幼稚園利用者の 8 割弱。

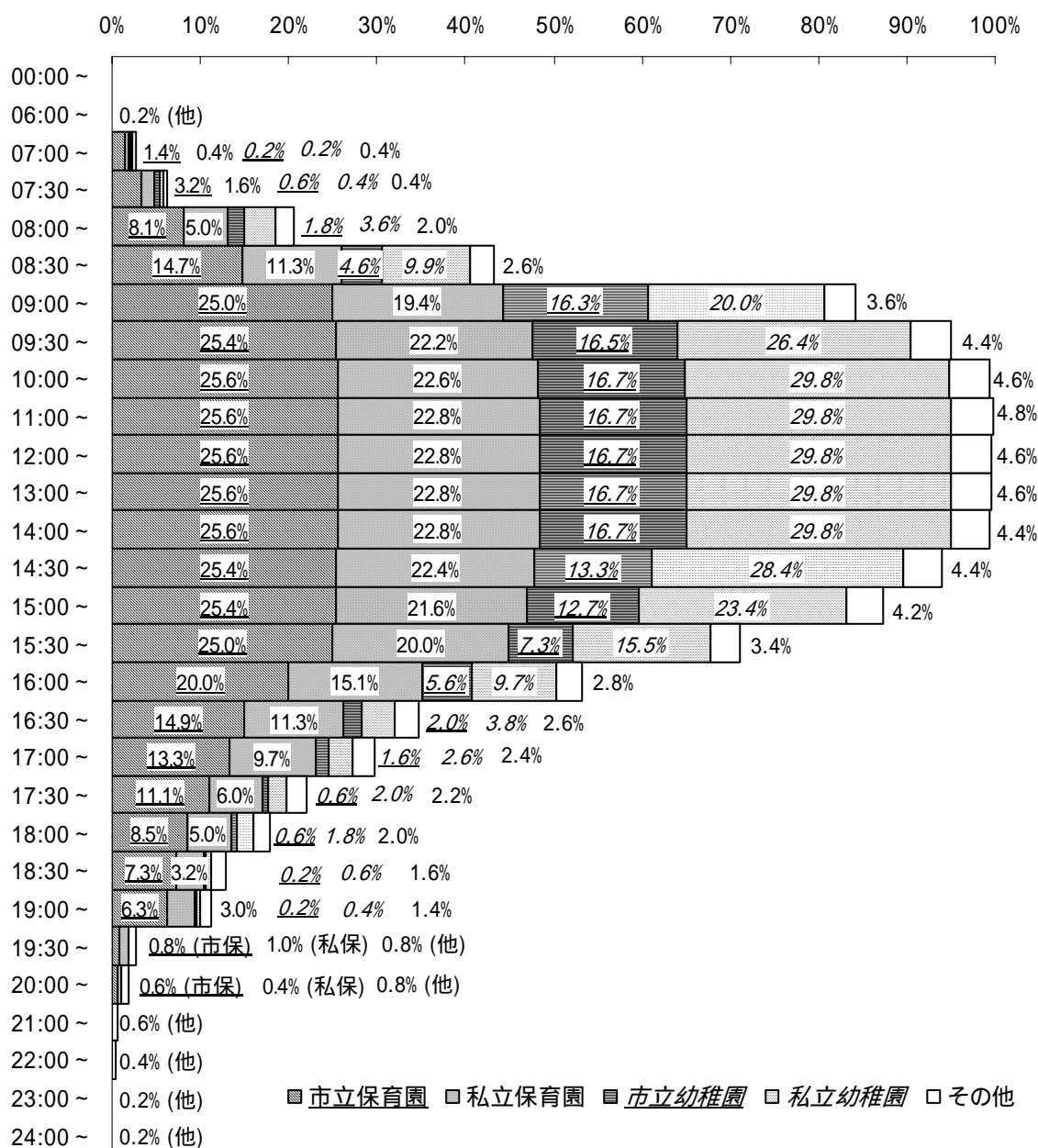
私立保育園利用者の 8 割は現状肯定。

保育や利用時間を「もっと遅い時間まで」延長することは、市立幼稚園に子どもを預けている保護者の約 8 割が希望している。市立幼稚園では、利用時間帯が「このままでよい」とする人の割合は約 2 割にとどまる。

「もっと早い時間から」預けたいとする保護者も、いずれの施設においても、1 割前後であるが見受けられる。

# 延長の希望時間帯

〔通園先別〕



(回答者数 496 人、園や託児所などに預けている人・延長希望のある人)

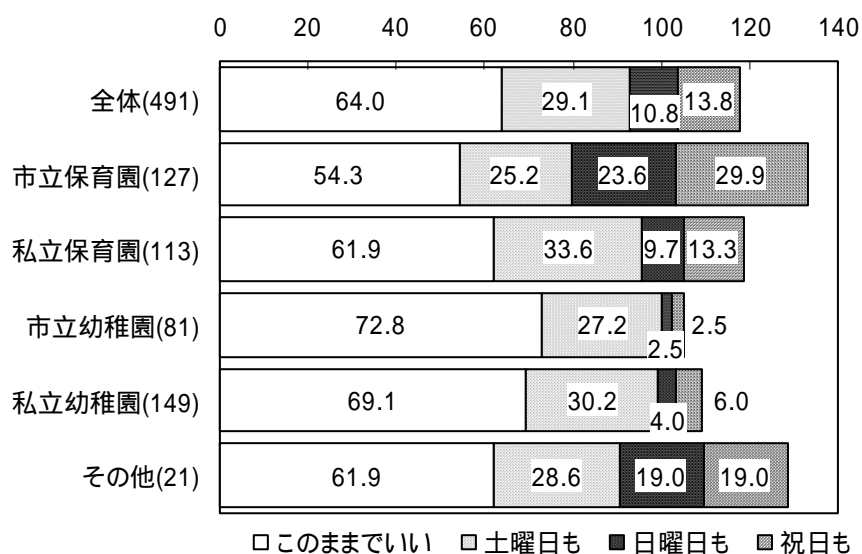
市立保育園の希望時間帯は 7 時から 20 時台まで、  
市立幼稚園でも 7 時から 19 時台までの希望が存在。

延長を希望する時間帯を施設ごとに整理すると、いずれの施設においても、現実に預けている時間帯よりも希望する時間帯は広く分散していることが分かる。市立保育園に限ってみれば、最も早い希望は 7 時台からで、延長は 19 時台・20 時台まで見受けられる。市立幼稚園でも、15 時台・16 時台の希望も少なくない。

## 土・日・祝日の希望

〔通園先別〕

問 17 土曜日や日曜祝日の希望はありますか？



(カッコ内は回答者数、複数回答、園や託児所などに預けている人)

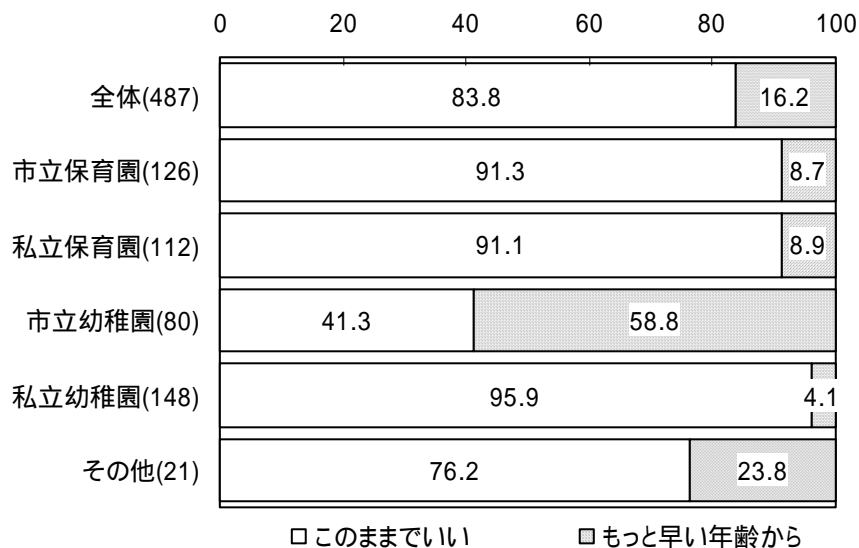
市立保育園利用者の2割台は、日曜・祝日の利用を希望。

「土曜日や日曜祝日」の利用は、市立保育園に預けている保護者の2割台がそれぞれ希望している。「このままでよい」とするのは、市立保育園に預けている保護者の約5割である。一方、市立幼稚園では「このままでよい」とするのが約7割であるものの、「土曜日も」希望するのは保護者の約3割である。

## 入園年齢の希望

〔通園先別〕

問 18 保育年齢や入園年齢への希望はありますか？

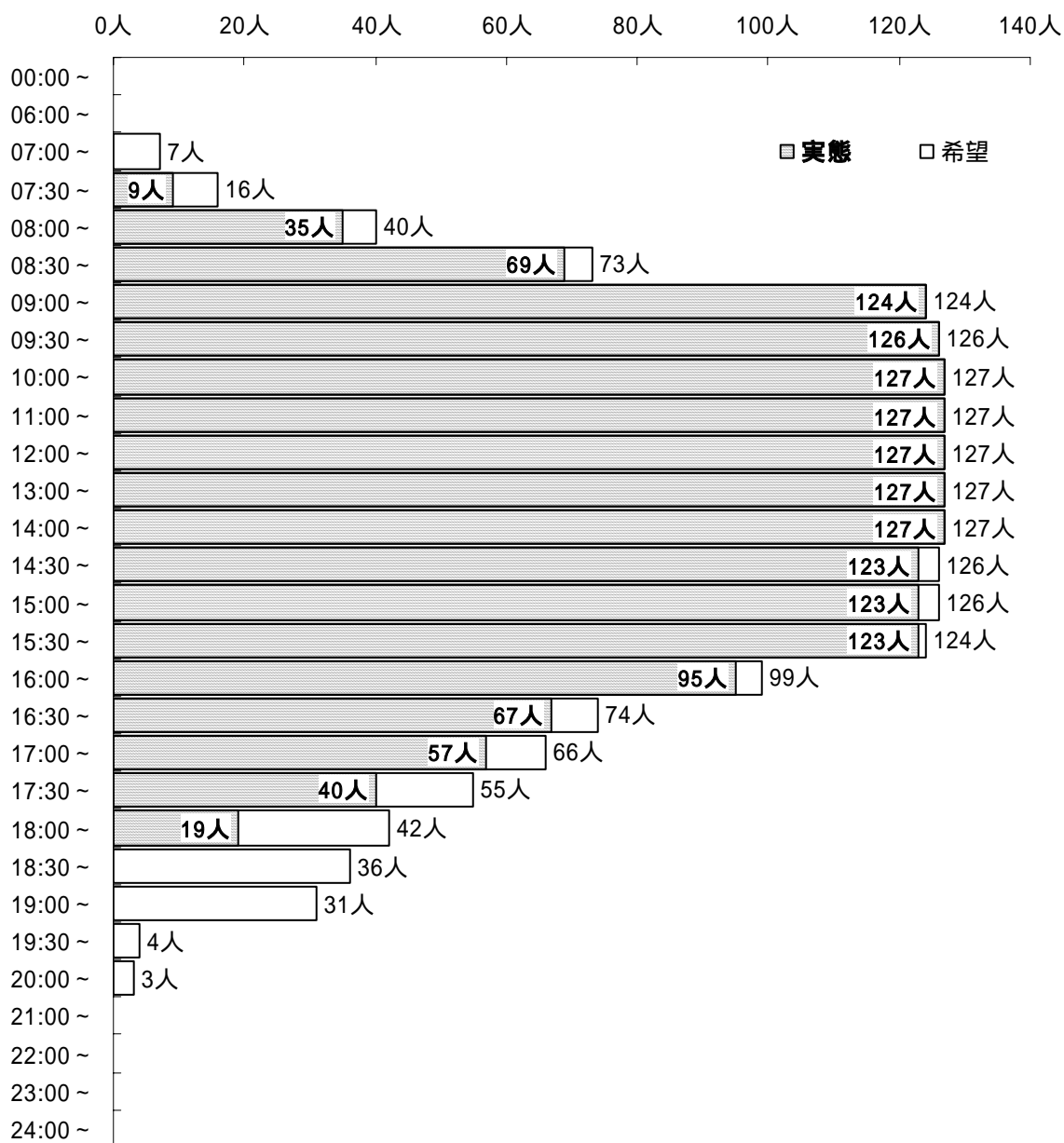


□このままでいい □もっと早い年齢から  
 (カッコ内は回答者数、園や託児所などに預けている人)

市立幼稚園利用者の約6割は、もっと早い年齢からの利用を希望。

もっと早い年齢からの利用について尋ねてみたところ、市立幼稚園を利用している保護者の約6割が希望している。

【市立保育園利用者】



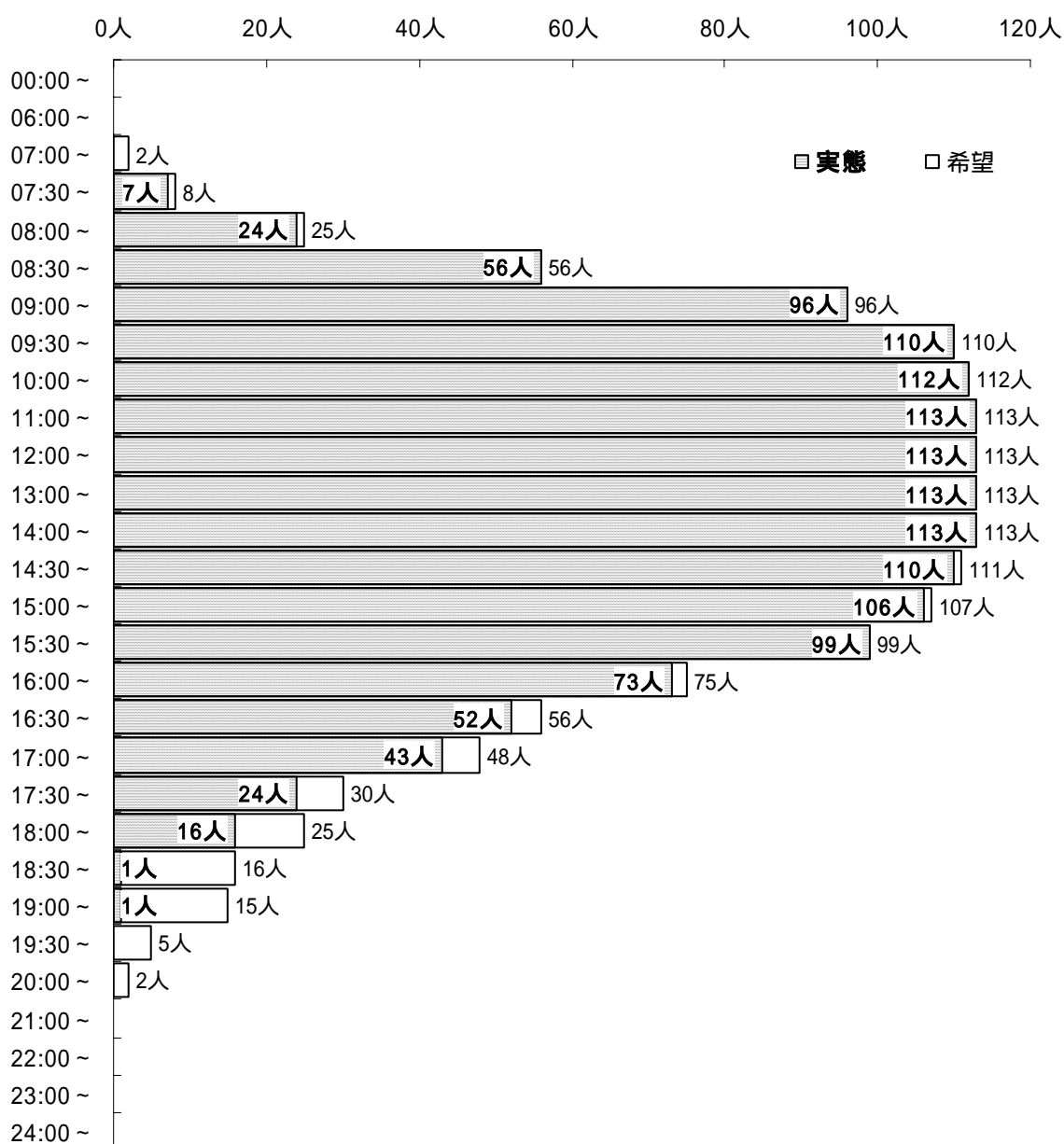
(回答者数 127 人、市立保育園に預けている人)

市立保育園利用者は 16 時以降で、通園実態と延長希望の開きが拡大。

市立保育園の利用者 127 人に限って、その利用実態と延長希望について時間帯ごとに整理したものが左図である。利用したい希望は 7 時以降 20 時台までにあり、16 時以降において延長を希望する人数は減っている。

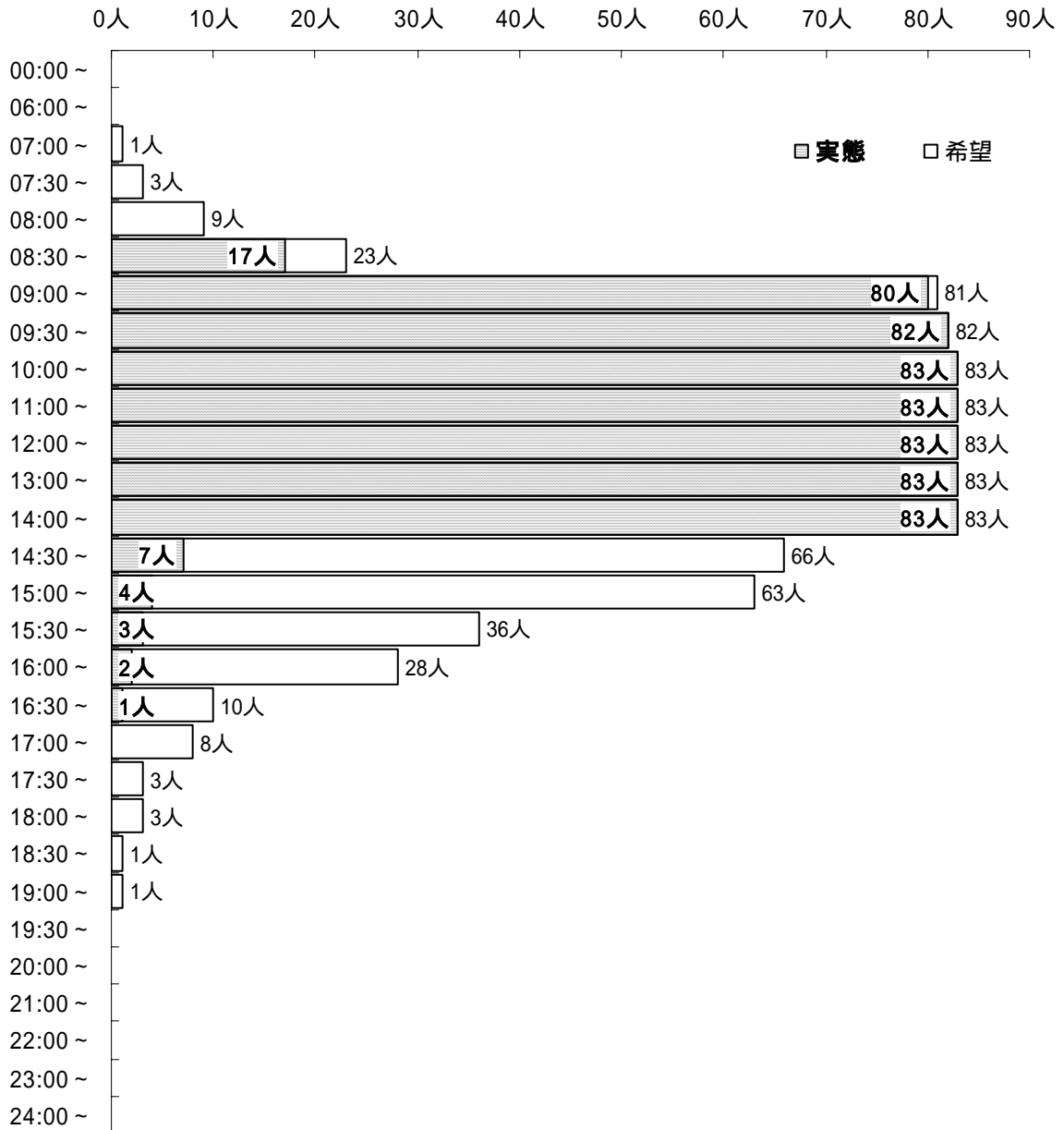
実態と希望の開き（白地部分）がある人数に着目すると、16 時から 18 時台後半にかけて増えている。19 時前後では、昼間に市立保育園に預けている回答者 127 人のうち 30 人台（およそ 4 分の 1）までが希望している。市立保育園利用者における実態と希望の開きは、私立保育園（下図）に比べやや大きい。

【私立保育園利用者】



(回答者数 113 人、私立保育園に預けている人)

【市立幼稚園利用者】



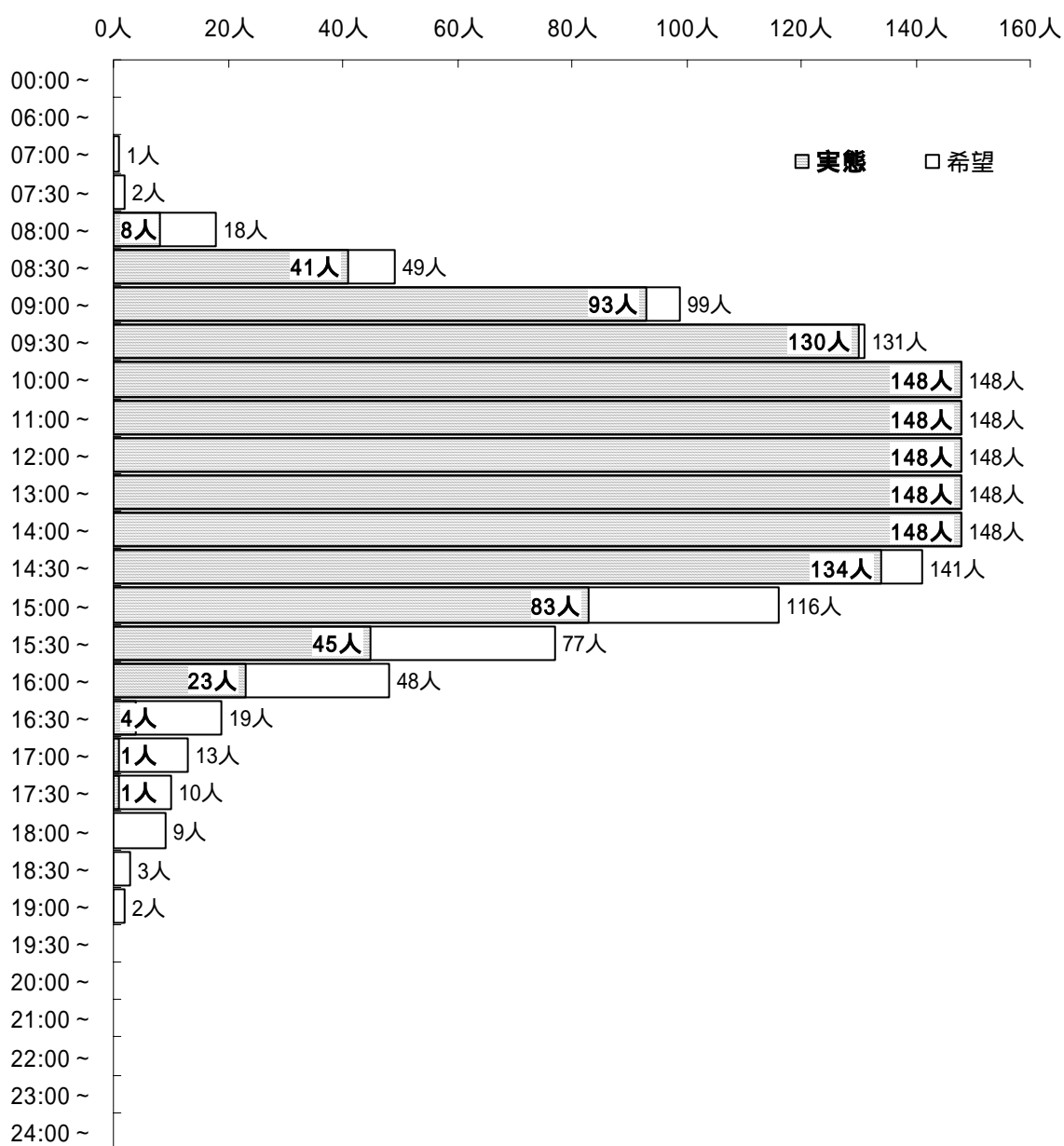
(回答者数 83 人、市立幼稚園に預けている人)

市立幼稚園利用者は、その半数以上が 15 時台前半までを希望。

市立幼稚園の利用者 83 人に限って、その利用実態と延長希望について時間帯ごとに整理したものが左図である。希望は 7 時以降 19 時台前半までにある。

実態と希望の開きがある人数に着目すると、14 時台後半から 15 時台前半までの時間帯では、昼間に市立幼稚園に預けている回答者 83 人のうち 60 人台（およそ 4 分の 3）までが、利用を希望している。16 時前後では半数を下回っているものの、実態と希望の開きが小さくない。

### 【私立幼稚園利用者】



(回答者数 148 人、私立幼稚園に預けている人)



#### (4)園を休んだときの対応

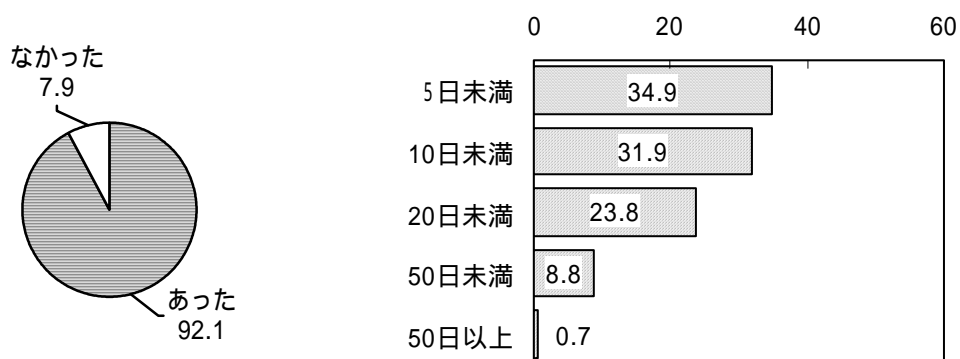
##### まとめ

園を休んだことのある児童は9割。年間20日未満が多い一方、日数の多い児童も。

園を休んだとき児童の面倒をみたのは、母親が9割弱。祖父母は3割。

#### 子どもが園を休んだ日数

問19 この1年間で、あて名のお子さんが病気で保育園や幼稚園を休んだことはありましたか？



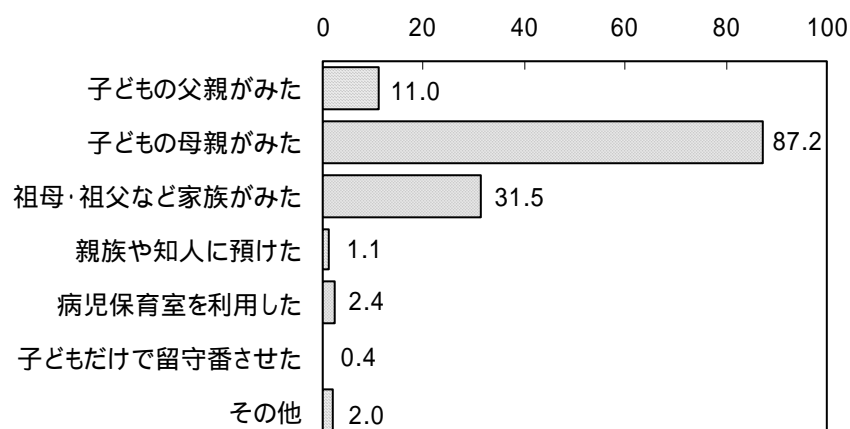
(回答者数 493 人、右図は休んだことのある回答者 433 人の休んだ日数園や託児所などに預けている人)

園を休んだことのある児童は9割。  
年間20日未満が多い一方、日数の多い児童も。

「1年間で、...病気で保育園や幼稚園を休んだこと」が「あった」児童は約9割である。そのうちの約3割は、年間5日未満である。少数ではあるが、年間50日以上休んだことのある児童も見受けられる。

## 休んだとき面倒をみた人

問 20 お子さんが休んだときは、どなたがお子さんの面倒をみましたか？



(回答者数 454 人、複数回答、保育園や幼稚園を休んだことのある人)

園を休んだとき児童の面倒をみたのは、母親が9割弱。祖父母は3割。

「病気で保育園や幼稚園を休んだこと」があった児童・家庭で、そのときに面倒をみた人のうち約9割までが「子どもの母親がみた」としている。次いで多いのは「祖母・祖父など家族がみた」というものである。一方、ごく少数であるが「子どもだけで留守番させた」という事例も見受けられる。なお、「病児保育室を利用した」事例は、保育園や幼稚園を休んだことのある児童・家庭の1割に満たない。

## 6．支援施策の利用と希望

### (1)施設・会の利用と希望

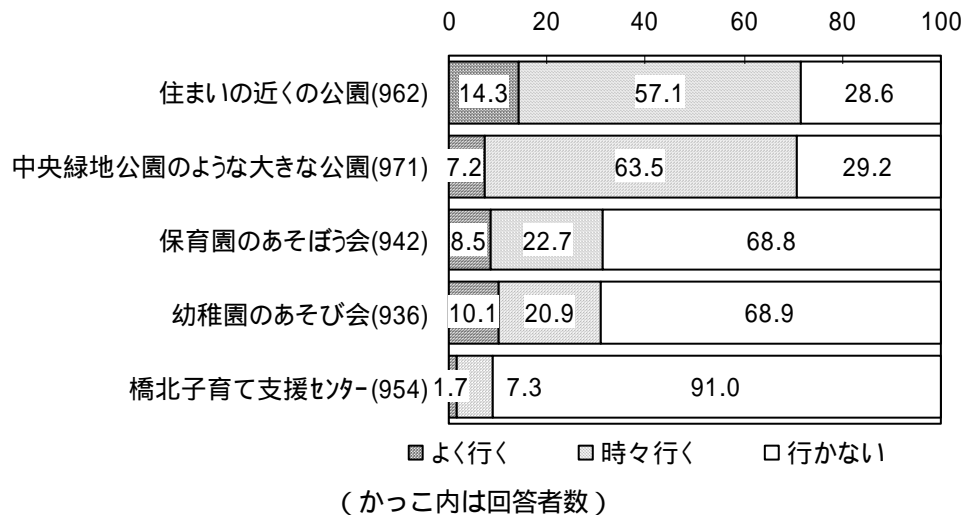
#### まとめ

利用の多い施設・会は「公園」。次いで「あそぼう会」・「あそび会」の3割。  
 不満な人が4割を占める「近くの公園」。  
 不満な点で多いのは「大きな公園」や「子育て支援センター」が遠いこと。

#### 施設・会の利用

問42 四日市市には、子どものための次のような施設や会がありますが、利用していらっしゃいますか？

(1)利用の有無



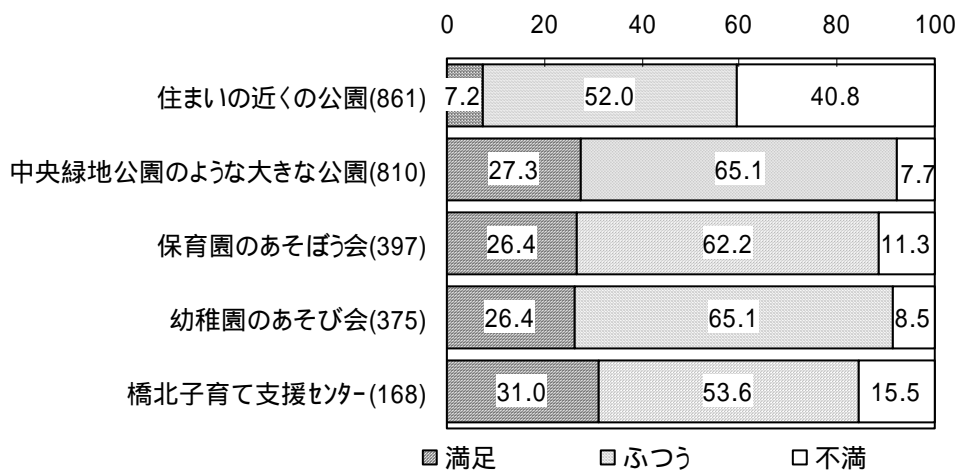
利用の多い施設・会は「公園」。次いで「あそぼう会」・「あそび会」の3割。

市の「施設や会」について、利用経験を尋ねた。「住まいの近くの公園」や「中央緑地公園のような大きな公園」は、「よく行く」とする家庭が1割前後、「時々行く」は6割前後である。また、「保育園のあそぼう会」、「幼稚園のあそび会」については、「よく行く」は約1割、「時々行く」は約2割である。「橋北子育て支援センター」は、他の施設・会と比べ利用経験のある人が少なく、1割未満である。

## 施設・会への評価

問 42 四日市市には、子どものための次のような施設や会がありますが、  
利用していらっしゃいますか？

(2)施設はどうお感じですか？



(カッコ内は回答者数)

### 不満な人が4割を占める「近くの公園」

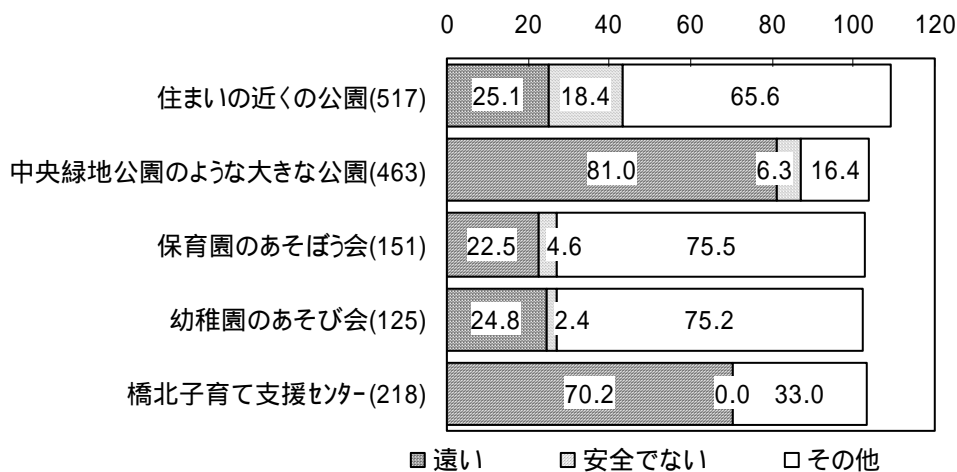
市の「施設や会」について、どのように感じているかを尋ねた。「住まいの近くの公園」は「不満」とする保護者が約4割を占める。

「保育園のあそぼう会」、「幼稚園のあそび会」は「満足」とする保護者が約3割を占めている。

## 施設・会の不満点

問 42 四日市市には、子どものための次のような施設や会がありますが、  
利用していらっしゃいますか？

(3)不満な点があればご記入ください



(カッコ内は回答者数、複数回答)

不満な点で多いのは「大きな公園」や「子育て支援センター」が遠いこと。

市の「施設や会」の不満な点を尋ねた。「中央緑地公園のような大きな公園」と「橋北子育て支援センター」については、回答が得られた範囲では、「遠い」ことが不満であると指摘する人が過半数に及んでいる。

なお、不満な点について「その他」の主な記入内容は、次のとおりである。

「住まいの近くの公園」

- ・清潔でない、遊具が少ない、トイレが(少)ない など

「中央緑地公園のような大きな公園」

- ・トイレが少ない、移動に車が必要、駐車場が少ない(遠い) など

「保育園のあそぼう会」

- ・日時が合わない、知らない など

「幼稚園のあそび会」

- ・園庭のみの利用であること、知らない など

「橋北子育て支援センター」

- ・知らない など

## (2)子育て支援の利用と希望

### まとめ

知っている人が9割を超える「あそぼう会・あそび会」、「保健センター」も約8割。

利用経験がある人が2割を超える「子育て支援センター」、「あそぼう会・あそび会」、「保健センター」。

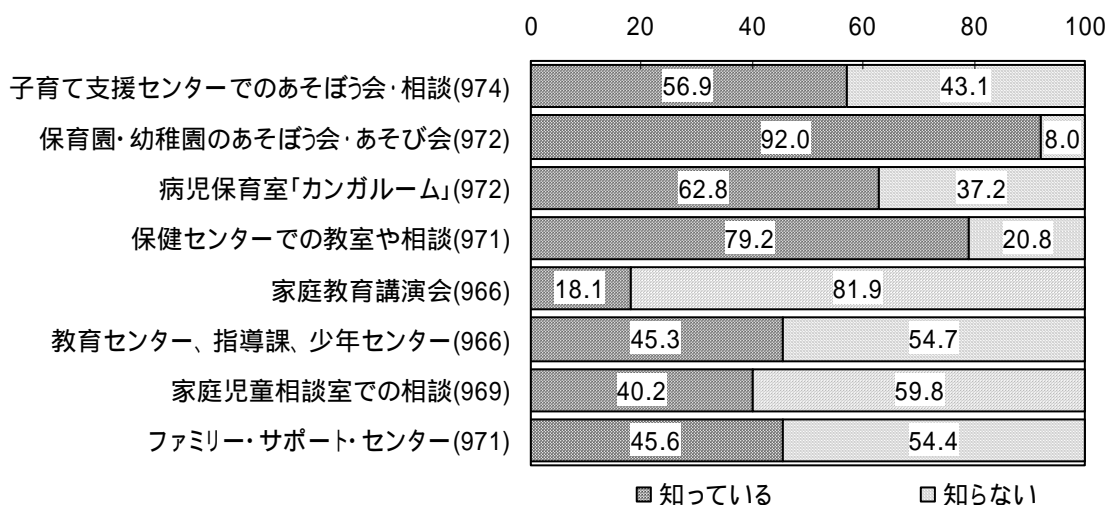
今後利用したい人が6割を超える「あそぼう会・あそび会」、「子育て支援センター」、「病児保育室」、「保健センター」も4割を超える。

約1割は、小学校入学後に学童保育所の利用を希望。

### 子育て支援の知識

問 58 四日市市では、次のような子育て支援を行っています。これらの支援をご存じですか？  
また利用されたことはありますか？

(1)この支援をご存じですか？



(カッコ内は回答者数)

知っている人が9割を超える「あそぼう会・あそび会」  
「保健センター」も約8割。

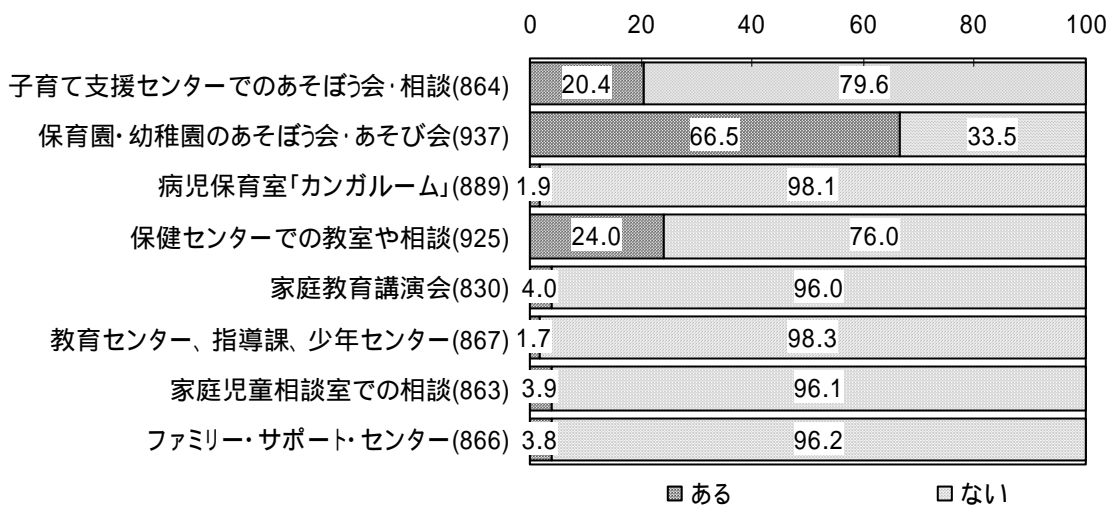
市の「子育て支援」についての周知度を尋ねたところ、知っている人が多い事業として、「保育園・幼稚園のあそぼう会・あそび会」と「保健センターでの教室や相談」などを挙げることができ、それぞれ約9割、約8割の保護者が知っている。

また、「子育て支援センターでのあそぼう会・相談」や「病児保育室「カンガルーム」」を知っている人が約6割に及んでいる。

## 子育て支援の利用経験

問 58 四日市市では、次のような子育て支援を行っています。これらの支援をご存じですか？  
また利用されたことはありますか？

(2)利用したことはありますか？



( カッコ内は回答者数 )

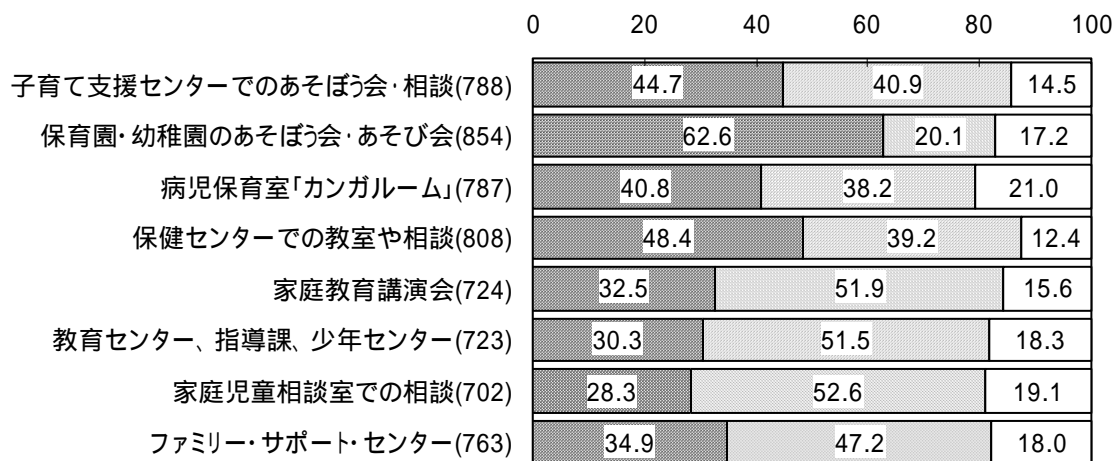
利用経験がある人が2割を超える「子育て支援センター」、  
「あそぼう会・あそび会」、  
「保健センター」。

市の「子育て支援」についての利用経験を尋ねたところ、利用したことがある人が多い事業は、「保育園・幼稚園のあそぼう会・あそび会」であり、約7割の児童・家庭が活用している。次いで、利用経験のある人が多い事業は、「子育て支援センターでのあそぼう会・相談」と「保健センターでの教室や相談」などであり、それぞれ約2割の児童・家庭が活用している。

## 子育て支援の希望

問 58 四日市市では、次のような子育て支援を行っています。これらの支援をご存じですか？  
また利用されたことはありますか？

(3) 今後、利用したいですか？



■ 利用したい □ するつもりはない □ 必要ない

( カッコ内は回答者数 )

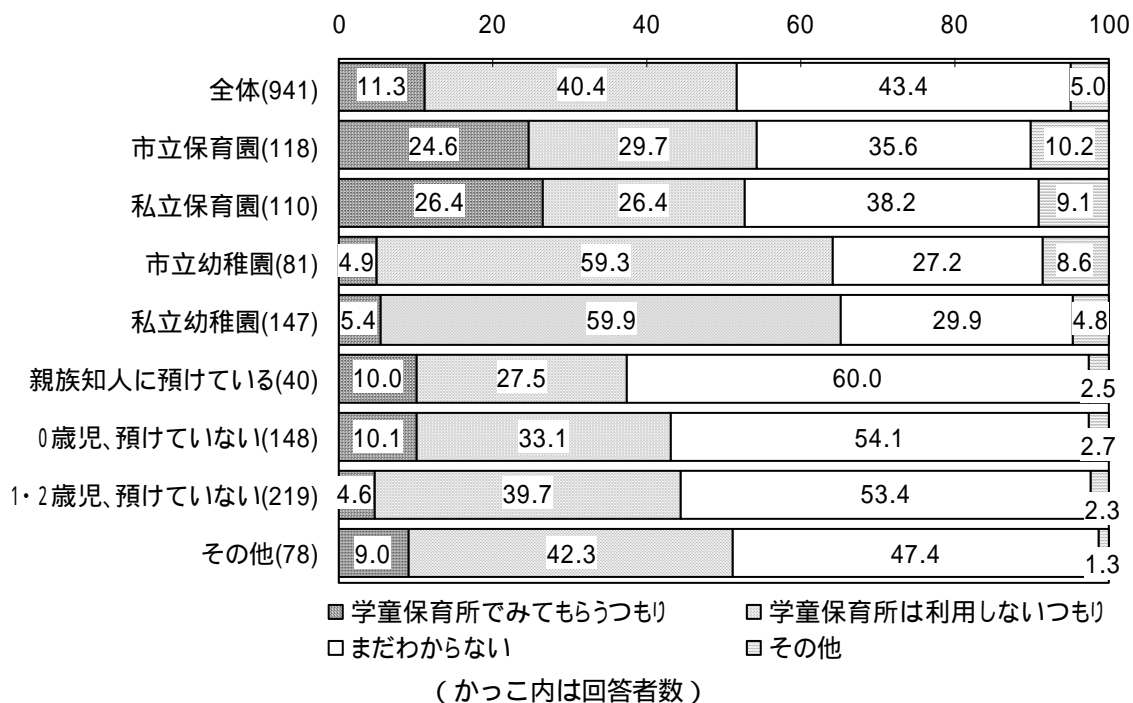
今後利用したい人が6割を超える「あそぼう会・あそび会」、  
「子育て支援センター」、「病児保育室」、「保健センター」も4割を超える。

市の「子育て支援」について今後の利用希望を尋ねたところ、いずれの事業についても、概ね3割以上の児童・家庭が利用したいとしている。「子育て支援センターでのあそぼう会・相談」「保育園・幼稚園のあそぼう会・あそび会」「病児保育室カンガルーム」「保健センターでの教室や相談」については、4割以上が希望している。



## 入学後、学童保育所(放課後児童クラブ)への希望〔通園先別〕

問 23 あて名のお子さんが小学校に入学したら、学童保育所（放課後児童クラブ）で  
みてもらいたいとお考えですか？



約 1 割は、小学校入学後に学童保育所の利用を希望。

就学前児童が小学校に入学後の「学童保育所（放課後児童クラブ）」の利用意向は、全体の約 1 割が「学童保育所でみてもらうつもり」としている。中でも、市立・私立の保育園の利用者では希望する家庭の割合が高く、その約 2 割が「学童保育所でみてもらうつもり」である。「その他」の主な記入内容は、「利用したいが施設が近くにない」という意見が目立つ。

### (3)子育て支援施策への意見・要望

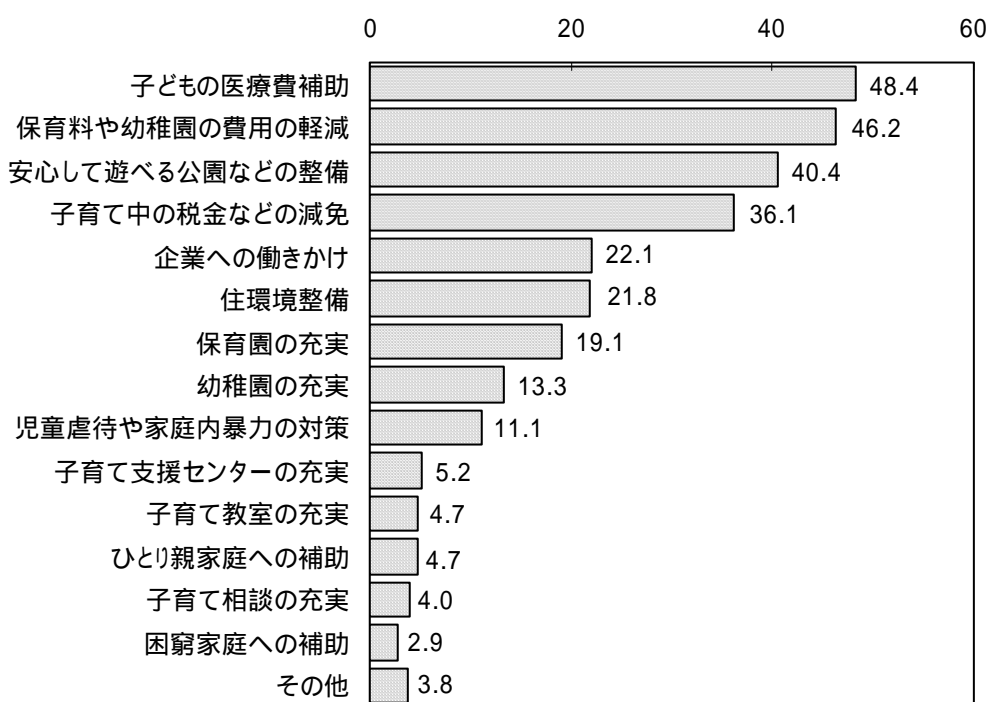
#### まとめ

3割以上の家庭が求める医療費・保育料・税金等の軽減や、公園などの整備。各種の子育て支援施策の充実を求める意見も少なくない。

就学前児童・家庭の約4割は、負担増を伴ってでも施策の充実を希望。

#### 本市の子育て支援への要望

問 59 今後、本市はどのような子育て支援に力を入れるべきでしょうか？



(回答者数 972 人、複数回答)

3割以上の家庭が求める医療費・保育料・税金等の軽減や、公園などの整備。各種の子育て支援施策の充実を求める意見も少なくない。

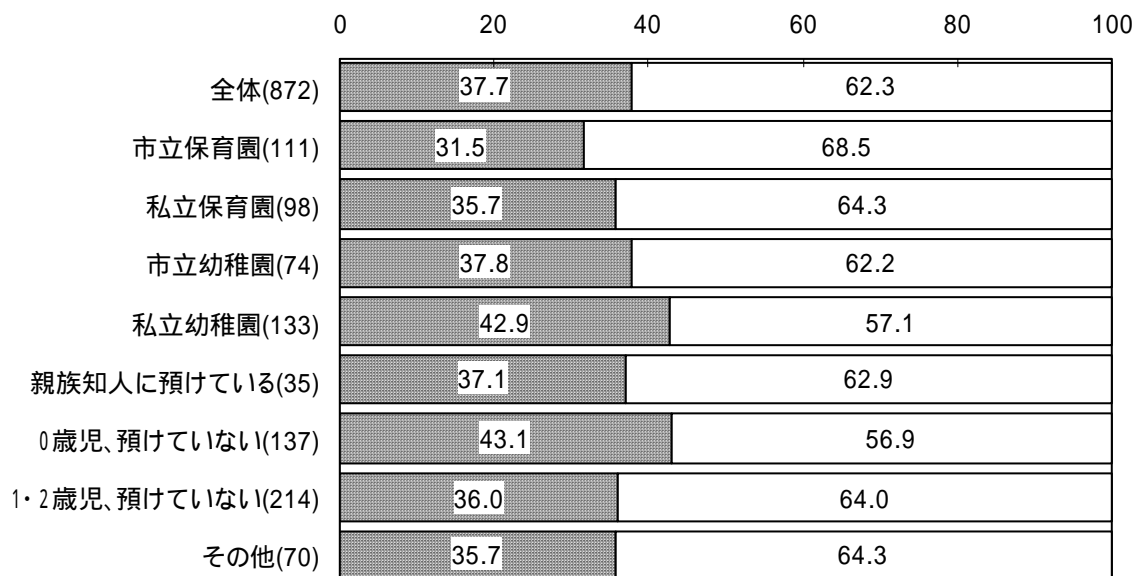
本市が力を入れるべき子育て支援施策として、多くの保護者が考えている施策は、「子どもの医療費補助」や「保育料や幼稚園の費用の軽減」「子育て中の税金などの減免」などの経済的な支援策や、「安心して遊べる公園などの整備」といったものである。これらの施策は、保護者の3割以上が要望している。

その他の施策分野については、要望内容が細分化しており、保護者の要望も分散した結果となった。

## 子育て支援施策のあり方

〔通園先別〕

問 60 今後、子育て支援をすすめるにあたって、あなたのお考えに近いものを選んでください。



■ 利用者負担が増えてもよいので、子育て支援の施策を増やしてほしい  
 □ 子育て支援の施策は今のままでよいので、利用者負担は減らしてほしい  
 (カッコ内は回答者数)

就学前児童・家庭の約4割は、負担増を伴ってでも施策の充実を希望。

子育て支援施策の推進にあたっての負担の問題について尋ねた。保護者の3～4割は、「利用者負担が増えてもよいので、子育て支援の施策を増やしてほしい」という意見をもっている。しかし、「子育て支援の施策は今のままでよいので、利用者負担は減らしてほしい」とする意見をもつ保護者は過半数に及んでいる。

現在の預け先別にみると、私立幼稚園では「利用者負担が増えてもよいので、子育て支援の施策を増やしてほしい」という意見をもつ保護者が約4割を占めているのに対し、市立保育園では「子育て支援の施策は今のままでよいので、利用者負担は減らしてほしい」という意見をもつ保護者は約7割である。